

海津市市民意識調査分析結果報告書

～ 第3次海津市男女共同参画プラン策定に向けた市民意識調査分析結果 ～



平成28年2月

海津市

目次

| | | |
|----|------------------------------|----|
| 1 | 市民意識調査の概要 | 1 |
| 2 | 分析結果 | 1 |
| 1) | 回答者の性、年齢等について（問 1～問 7） | 2 |
| 2) | 男女共同参画社会について（問 26～問 34） | 5 |
| 3) | 自由回答（男女共同参画に関する意見：総括表と内容別一覧） | 44 |

1 市民意識調査の概要

1) 目的

本調査は第3次海津市男女共同参画プランの策定にあたって、市民の男女共同参画に対する意識や要望等を把握するために実施。

2) 実施期間

平成27年10月23日（金）～11月6日（金）

但し、11月20日（金）までに本市に到着したのものまでを有効としています。

3) 調査対象者

平成27年9月現在の住民基本台帳から無作為に抽出した、15歳以上の市民計3,000人

4) 回収状況

有効回答数 1,318部（回収率 43.9%）

2 分析結果

結果の内容構成

1) 回答者の性、年齢等について（問1～問7）

2) 男女共同参画社会について（問26～問34）

- ・回答者の性、年齢等からみた集計（「クロス集計」という）を含む。
- ・平成17年及び平成22年のアンケート結果と比較

3) 自由回答（カテゴリ別に分類して整理）

- ・男女共同参画に関する意見（総括表と内容別の意見）

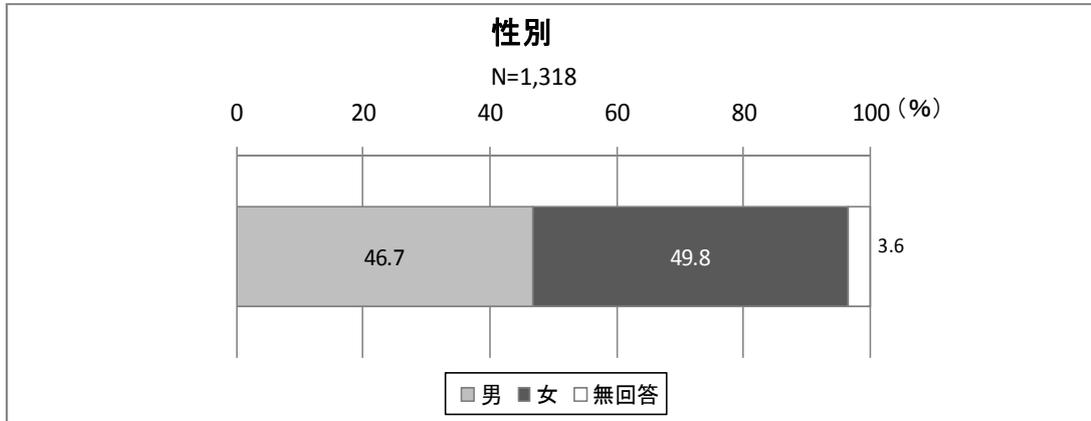
留意事項

- ・図中の％は端数処理をしているため、合計が100.0%にならないことがある。
- ・グラフの外枠の線が実線のものは単純集計、破線はクロス集計（性、年齢等からみた集計）の結果である。
- ・複数回答の設問（問33、問34）において、単純集計のグラフは、全回答者数（1,318人）の中で、その選択肢を選んだ人の割合を示している。一方、クロス集計のグラフでは、各クロス項目（性、年代、居住してる町など）において回答された全件数に対する割合を示している。

1) 回答者の性、年齢等について

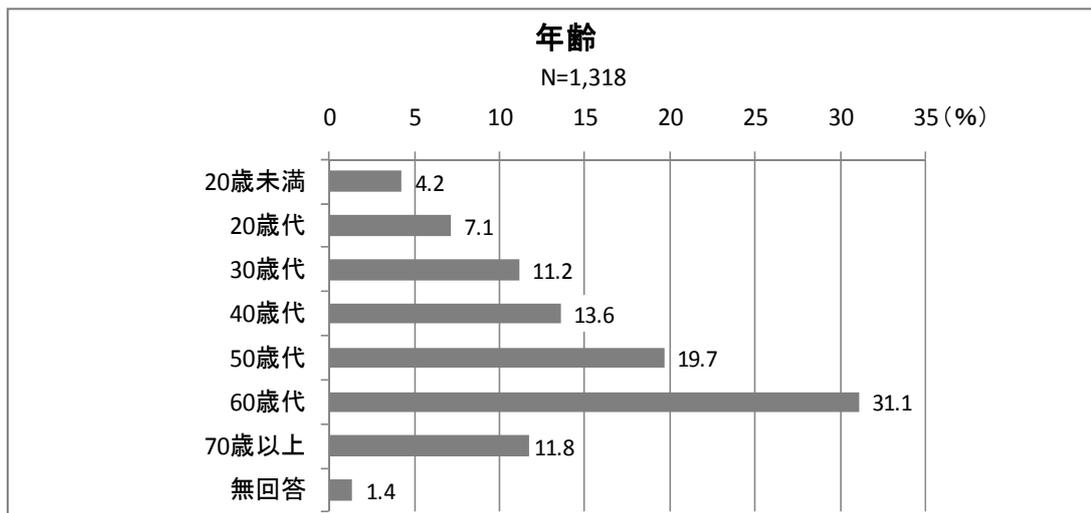
問1 性別

○回答者は女性（49.8%）が男性（46.7%）よりもわずかに多い。



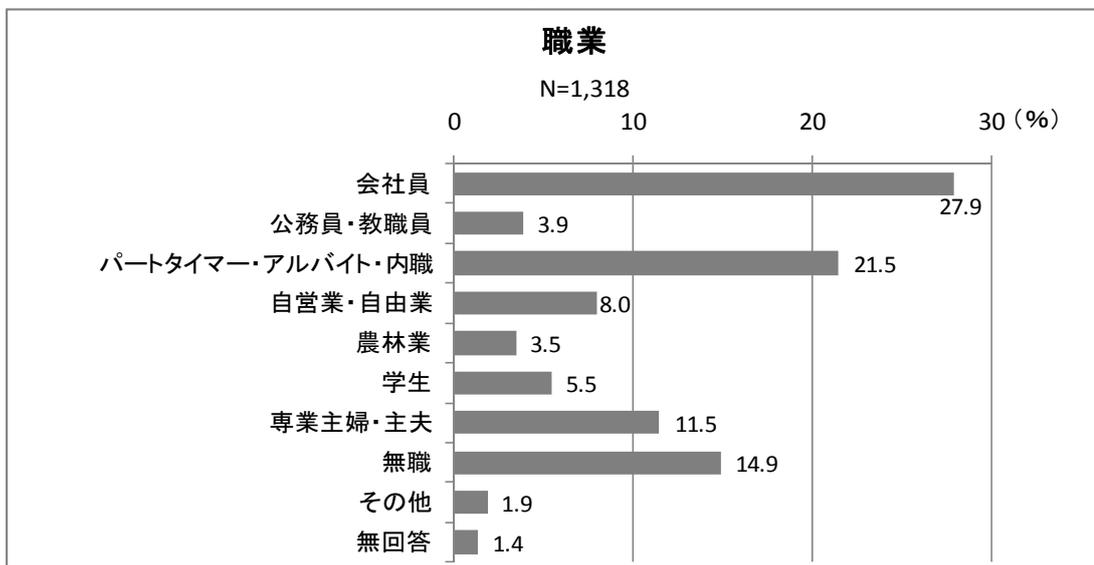
問2 年齢

○回答者は60歳代が31.1%で最も多く、50歳代が19.7%が続いている。



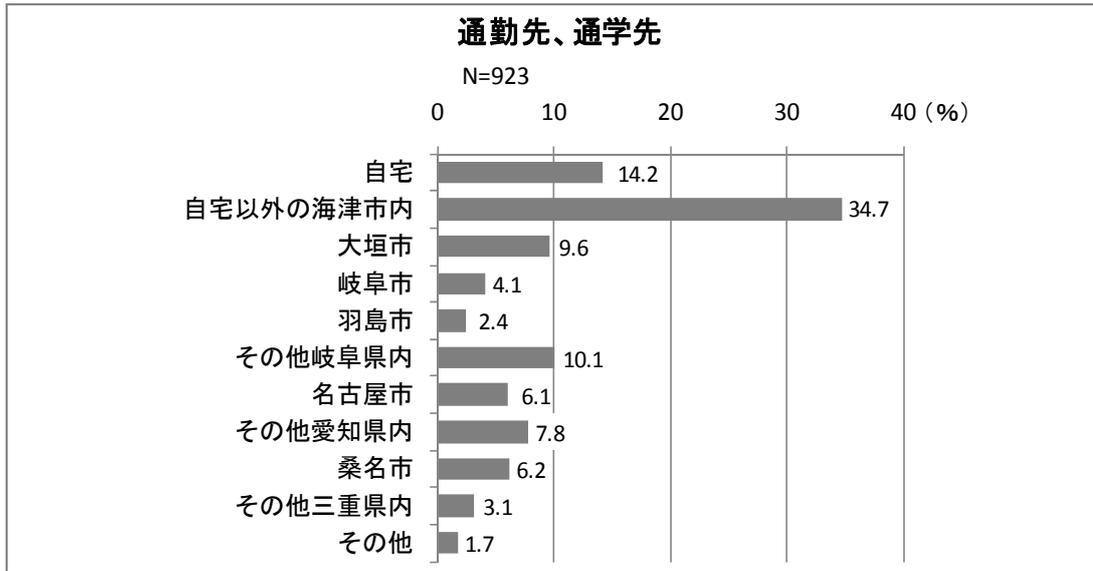
問3 職業

○職業は、会社員、パート・アルバイトなどが比較的多い。



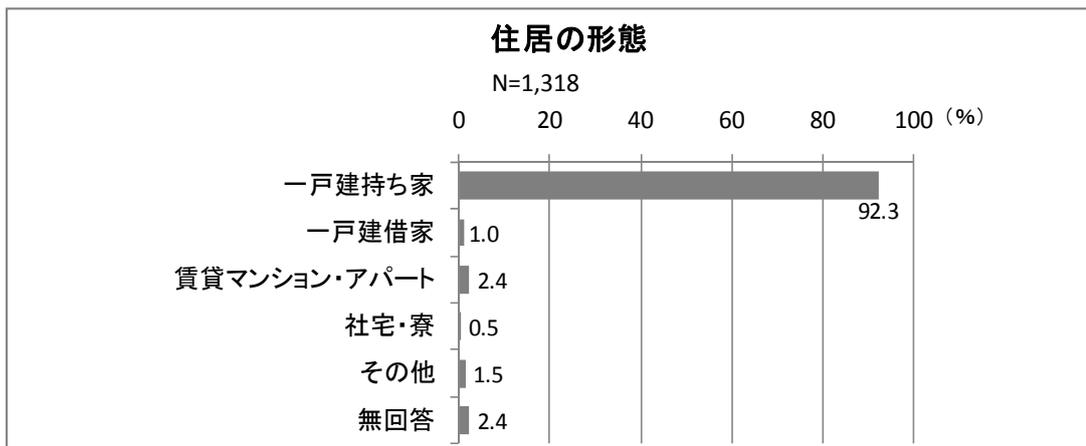
問 3-1 通勤・通学先

○通勤・通学先は、自宅以外の海津市内が 34.7%を占め、最多である。



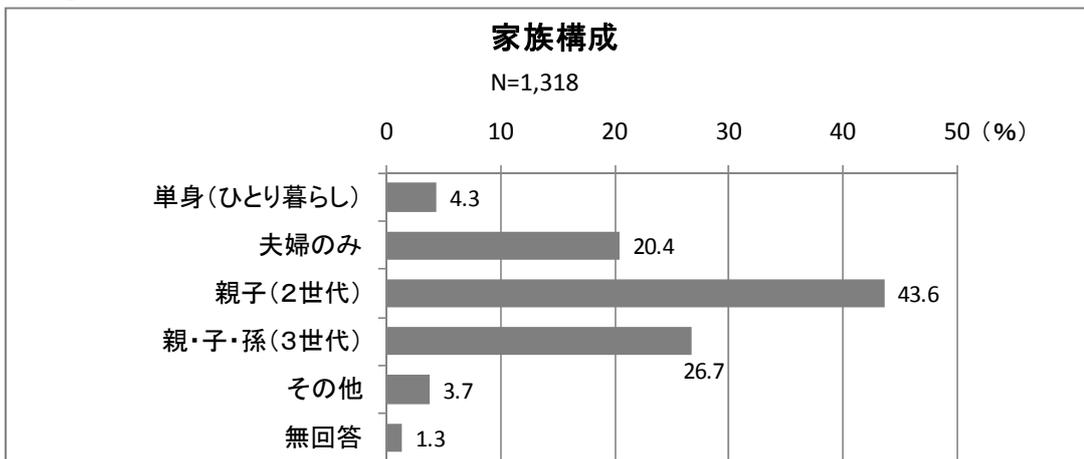
問 4 住居の形態

○住居は、一戸建て持ち家が全体の 92.3%を占め、最も多い。



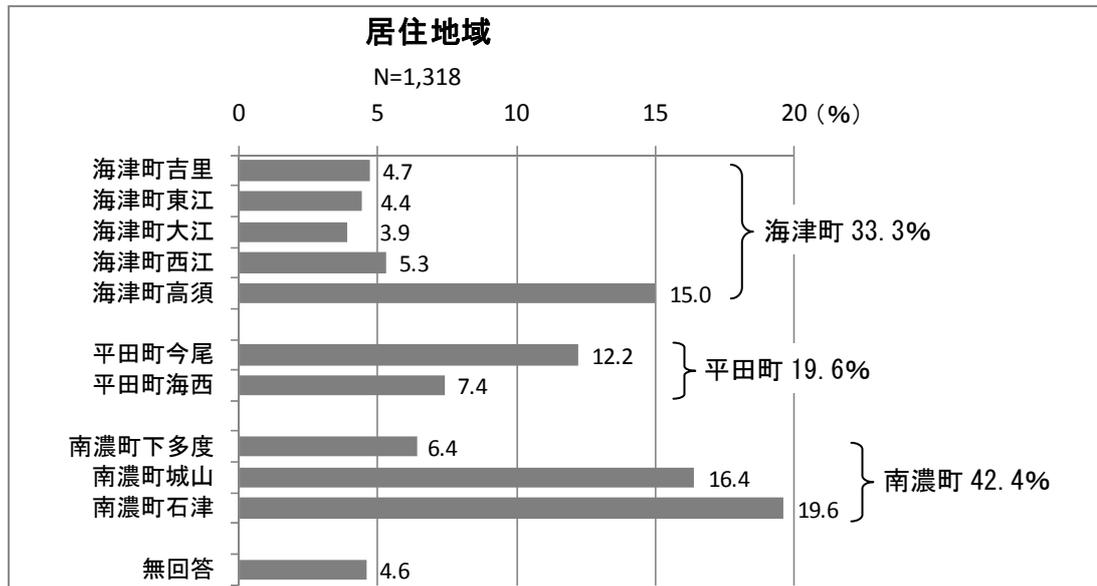
問 5 家族構成

○家族構成は親子（2世代）が 43.6%、親・子・孫（3世代）が 26.7%であり、両者で全体の約 7割を占めている。



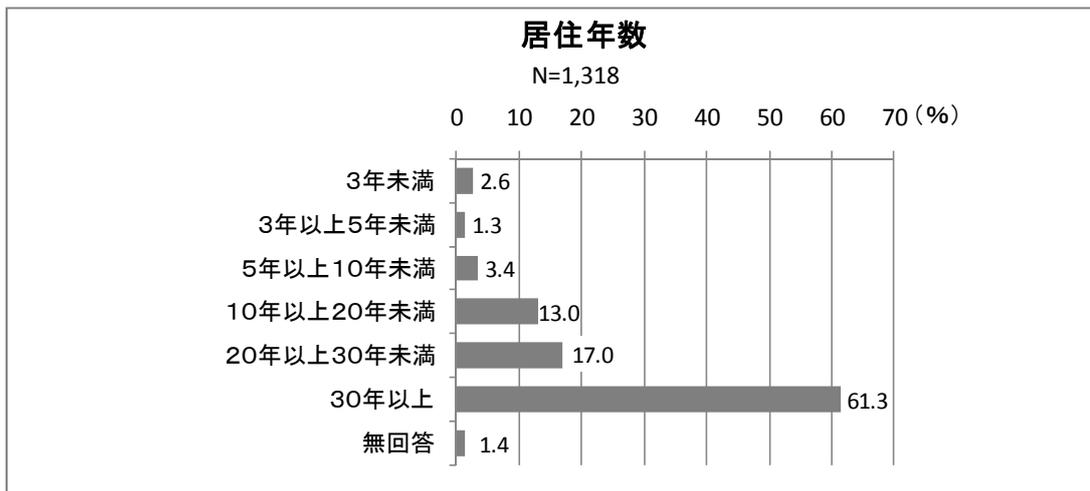
問6 住んでいる町と地区名

○回答者が住んでいる町（海津町、平田町、南濃町）の割合は、町別の人口比（H22 国勢調査：海津町 36.9%、平田町 20.3%、南濃町 42.8%）に近いものとなっている。



問7 海津市に住んでいる年数

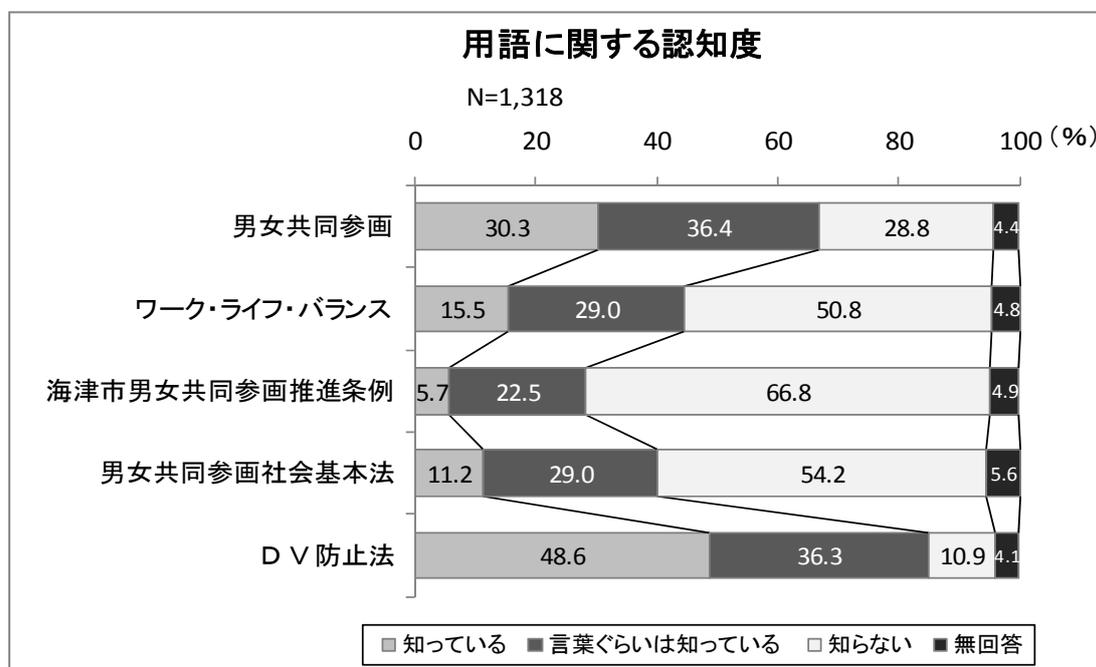
○海津市に住んでいる年数は、30年以上が全体の約6割を占め、長年にわたって本市に居住している人が多い。

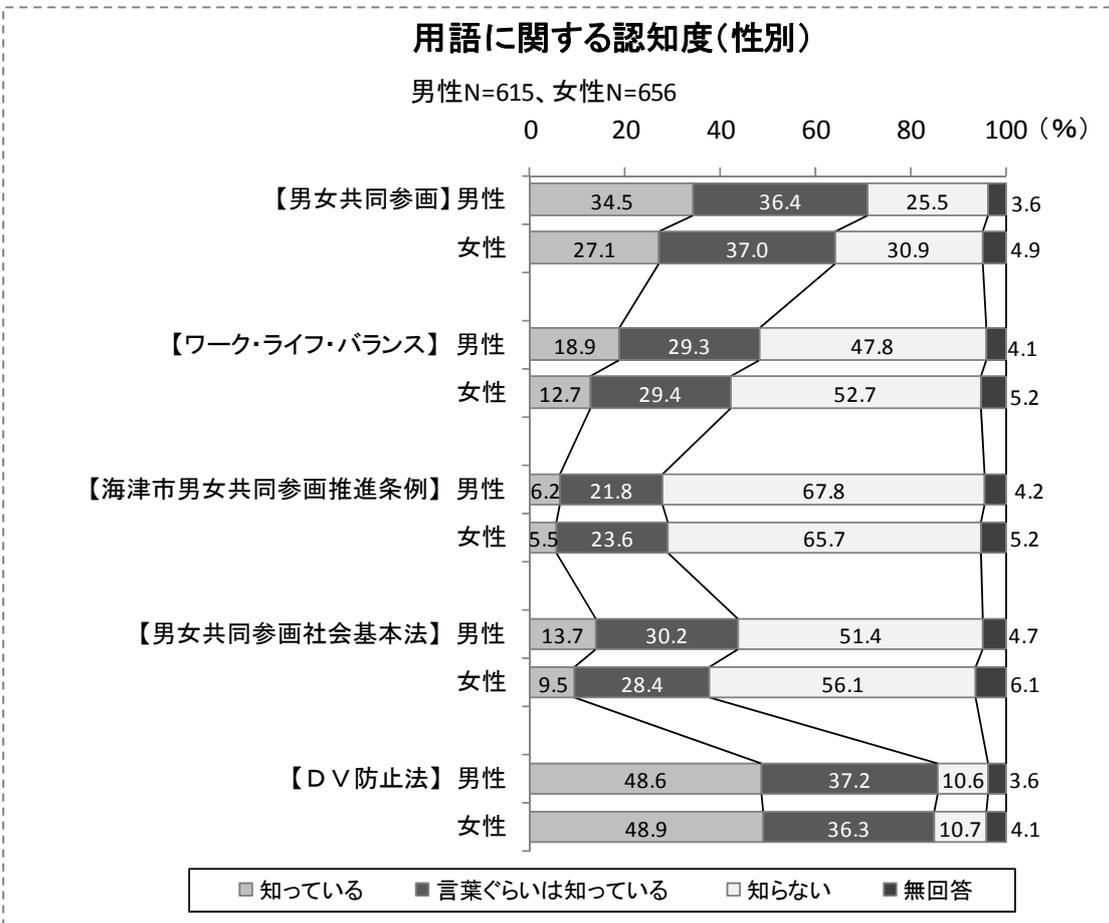
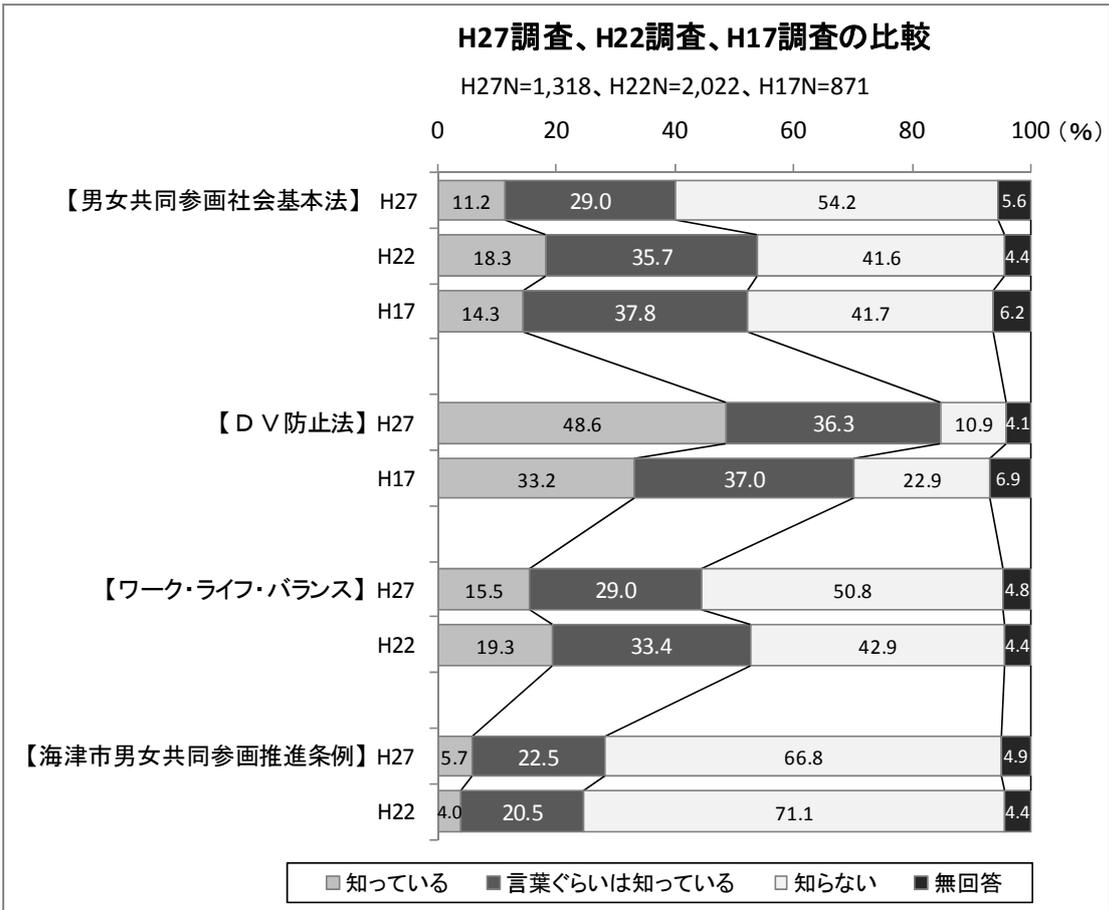


2) 男女共同参画社会について

問26 次の用語についてご存知ですか。

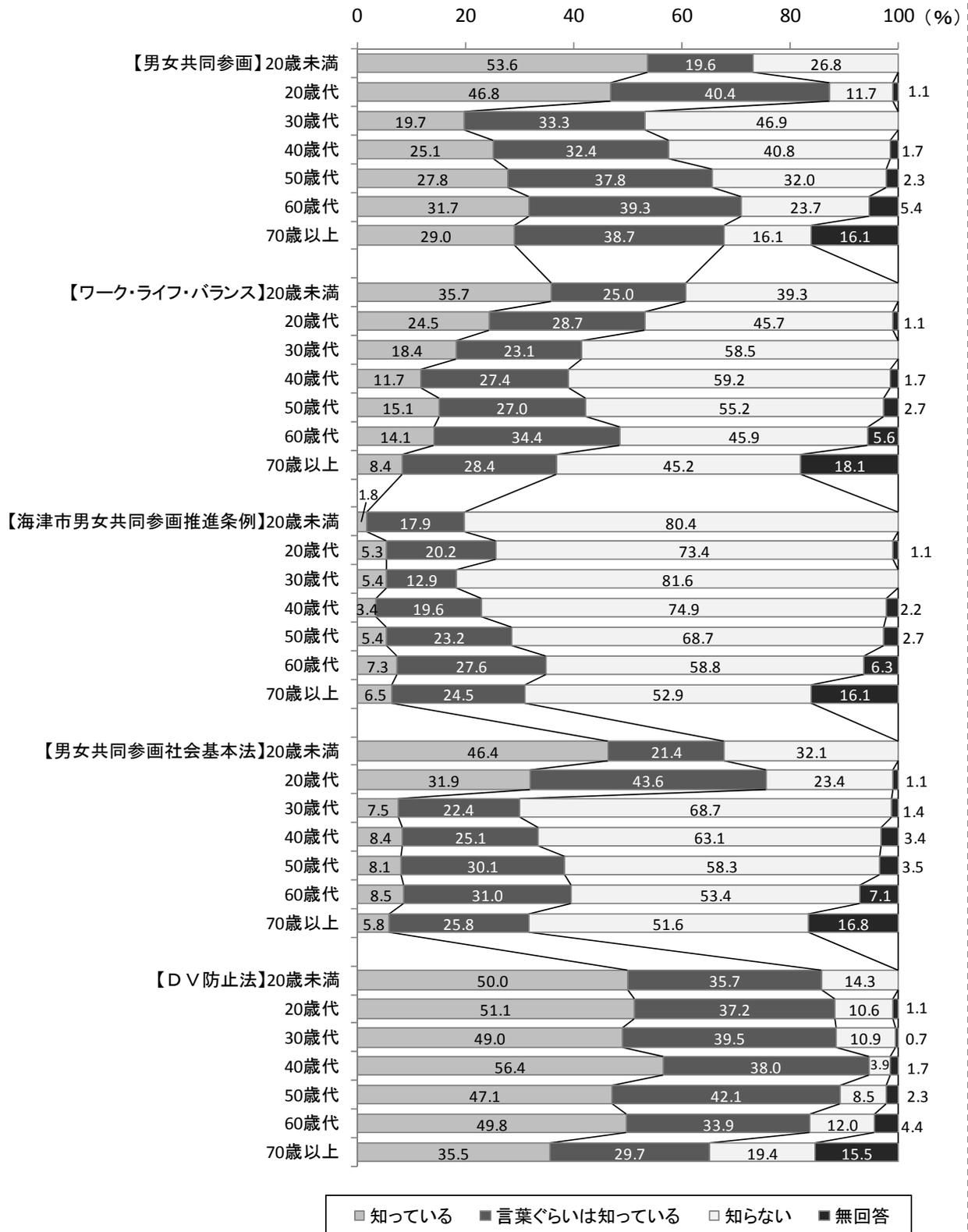
- 「知っている／言葉くらいは知っている」と回答した人が最も多かったのは「DV防止法」で、84.9%となっている。男女に大きな差はなく、性別を問わず広く認知されている。年代別に比較すると、若者から高齢者まで「知らない」と回答する人の割合の方が少なく、全体を通じて50%以上の人が「知っている」もしくは「言葉くらいは知っている」と回答をしている。
- 用語の中で、「知らない」と回答した人が最も多かったのは「海津市男女共同参画推進条例」の66.8%、次いで「男女共同参画社会基本法」の54.2%となっている。これらについて、性別で大きな差はなく、性別を問わず認知されていないことが分かる。
- 「知らない」と回答した人の割合が2番目に多かった「男女共同参画社会基本法」は、年代別に比較すると、20歳未満と20歳代のみ「知っている／言葉くらいは知っている」と回答した人の割合が約70%となっている。これは、男女共同参画社会基本法が施行された年が1999年であること、また施行されてから小・中・高等学校等の教科書に「男女共同参画社会基本法」についての記載がされるようになったことが要因としてあげられると考えられ、顕著に数字に現れているといえる。
- 今後の海津市の男女共同参画推進のための重要施策としてあげている「ワーク・ライフ・バランス」については、「知らない」と回答した人の割合が50.8%となっている。性別で比較すると、男女に大きな差はなく、性別を問わず認知されていない。また、年代別に比較した際に、20歳未満のみ「知っている／言葉くらいは知っている」と回答した人の割合が60%を超え、若い年代を中心に認知されていることが分かる。





用語に関する認知度(年代別)

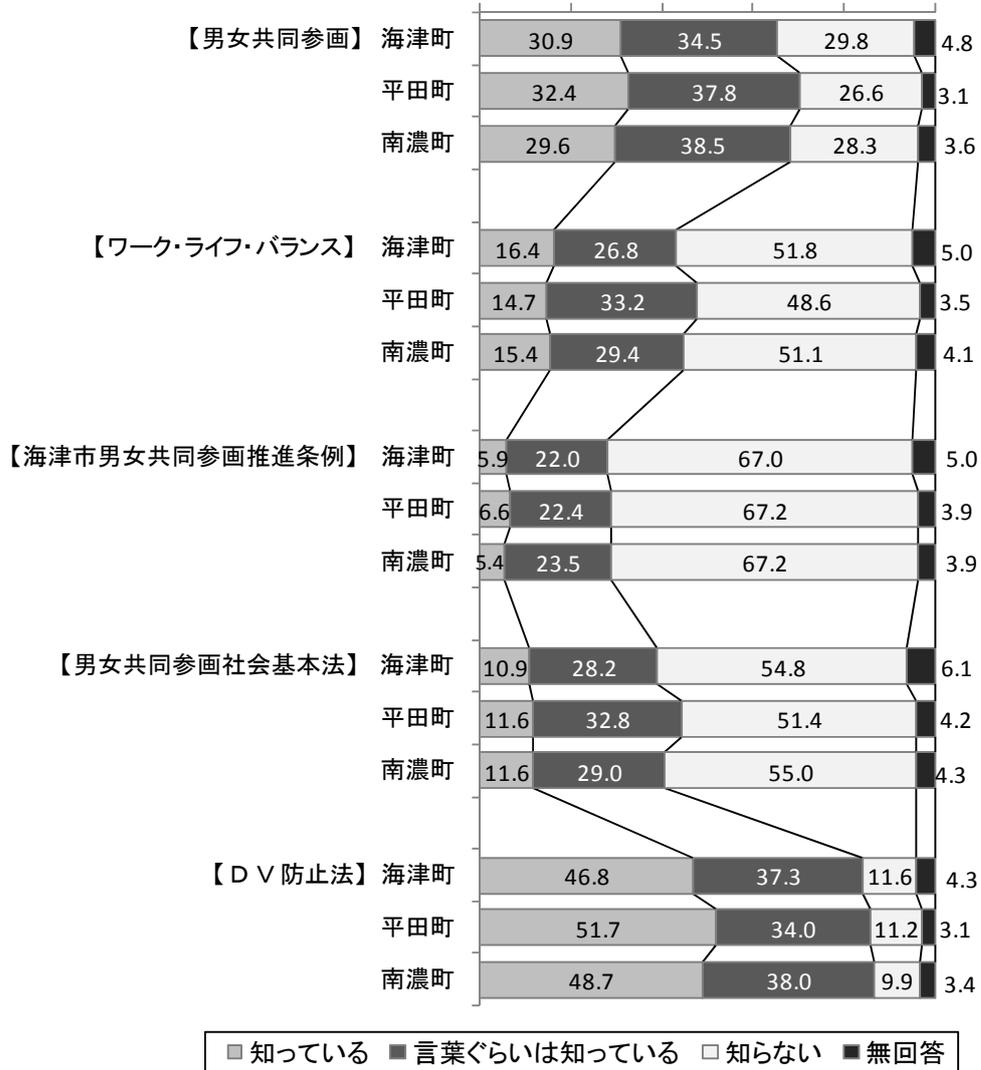
20歳未満N=56、20歳代N=94、30歳代N=147、40歳代N=179、
50歳代N=259、60歳代N=410、70歳以上N=155



用語に関する認知度(町別)

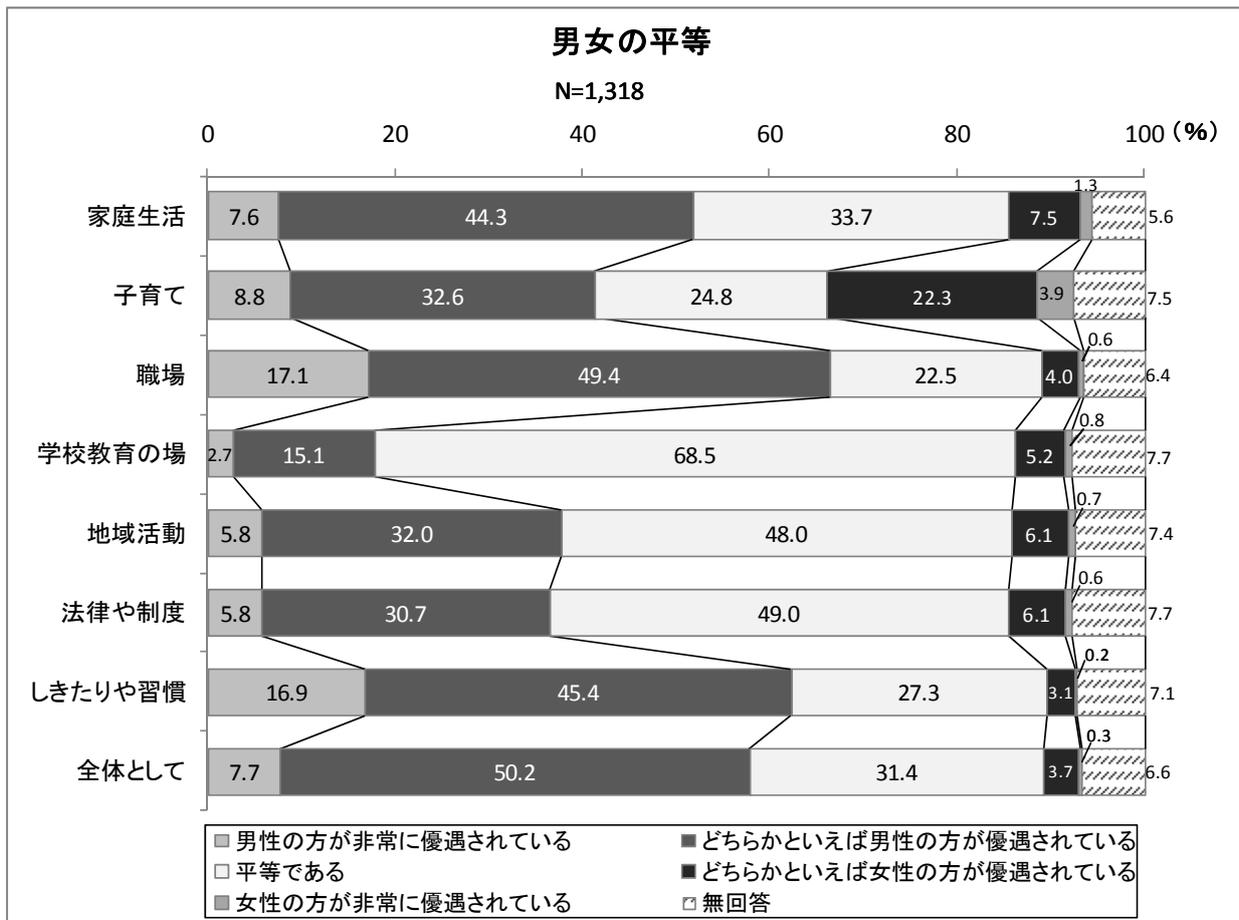
海津町N=440、平田町N=259、南濃町N=558

0 20 40 60 80 100 (%)



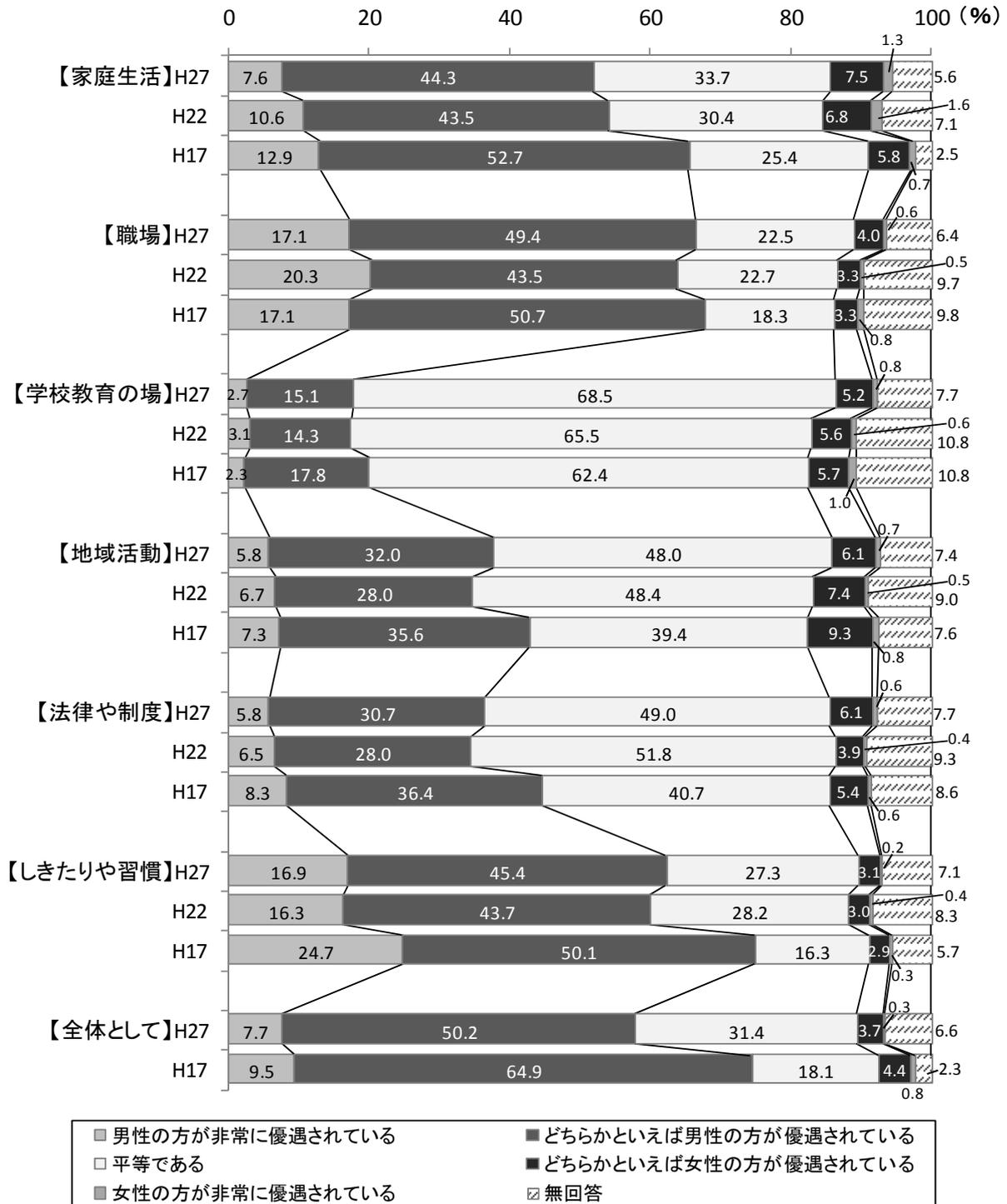
問27 各分野における男女の地位は平等になっていると思いますか。

- 全体として半数以上が、「男性の方が優遇されている（非常に優遇されている／どちらかといえば優遇されている）」と感じている。「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合が多かったのは、「職場」の66.5%、次いで「しきたりや習慣」の62.3%である。過去の調査（H22、H17）及び性別で比較しても、それほど大きな変化はない。また、年代別で比較した際に、50歳代が「男性の方が優遇されている」と回答している割合が最も高い。このことから、古い時代の男性中心の考え方が意識として根強く残っていると考えられる。
- 一方で、「女性の方が優遇されている（非常に優遇されている／どちらかといえば優遇されている）」と回答した人の割合が多かったのは、「子育て」の26.2%、次いで「家庭生活」の8.8%である。
- 「子育て」を年代別に比較してみると、20歳代及び30歳代は「女性の方が優遇されている」と回答した人の割合の方が多いが、40歳代から男女の割合が逆転し、60歳代では、「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、「女性の方が優遇されている」と回答した人の割合の約2倍となっている。
- 「平等」と回答している人の割合が最も多かったのは、「学校教育の場」の68.5%である。性別で比較した際にも差はない。また、年代別で比較した際にも、全体の半数以上が平等であると感じている。



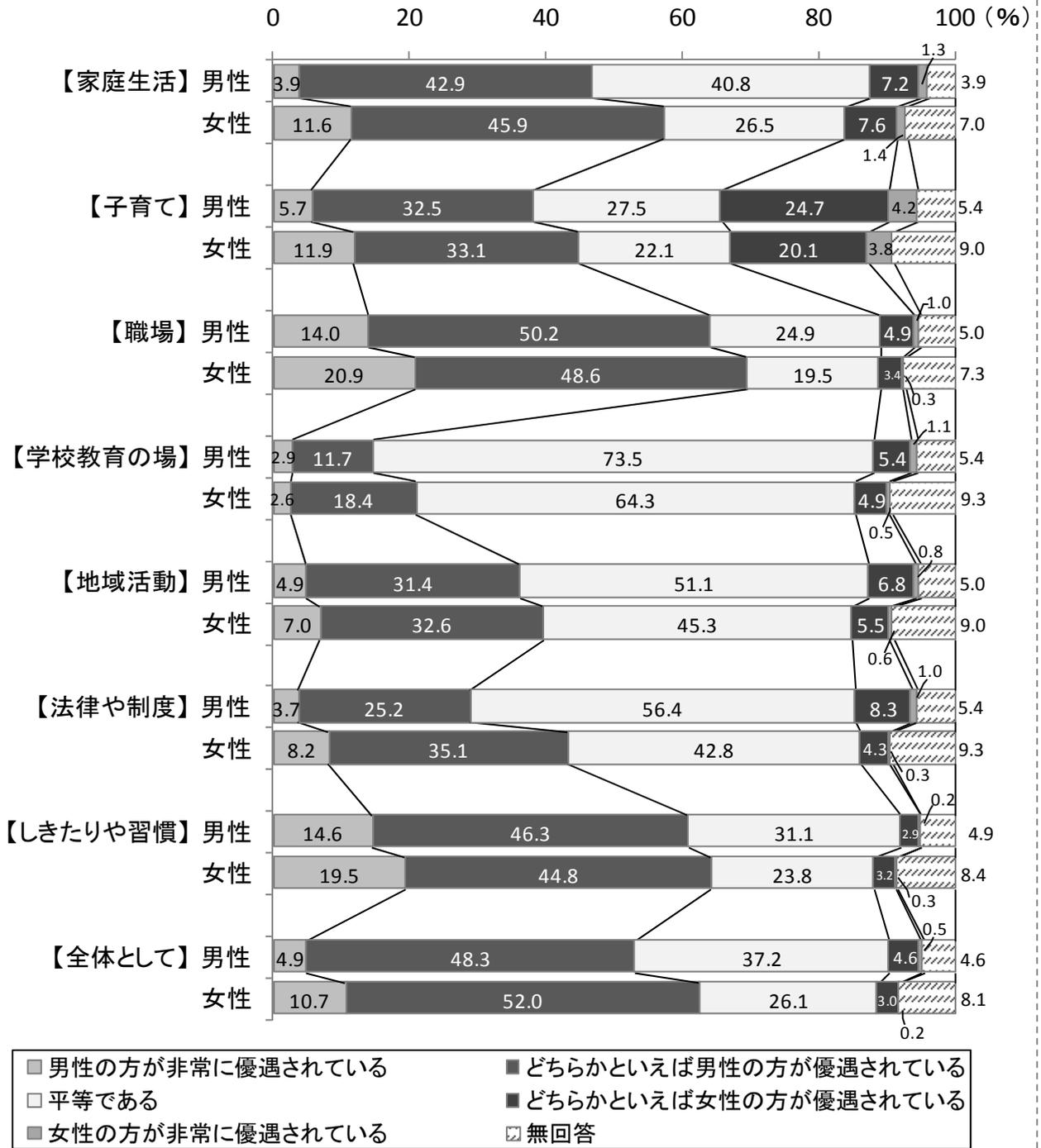
H27調査、H22調査、H17調査の比較

H27N=1,318、H22N=2,022、H17N=871



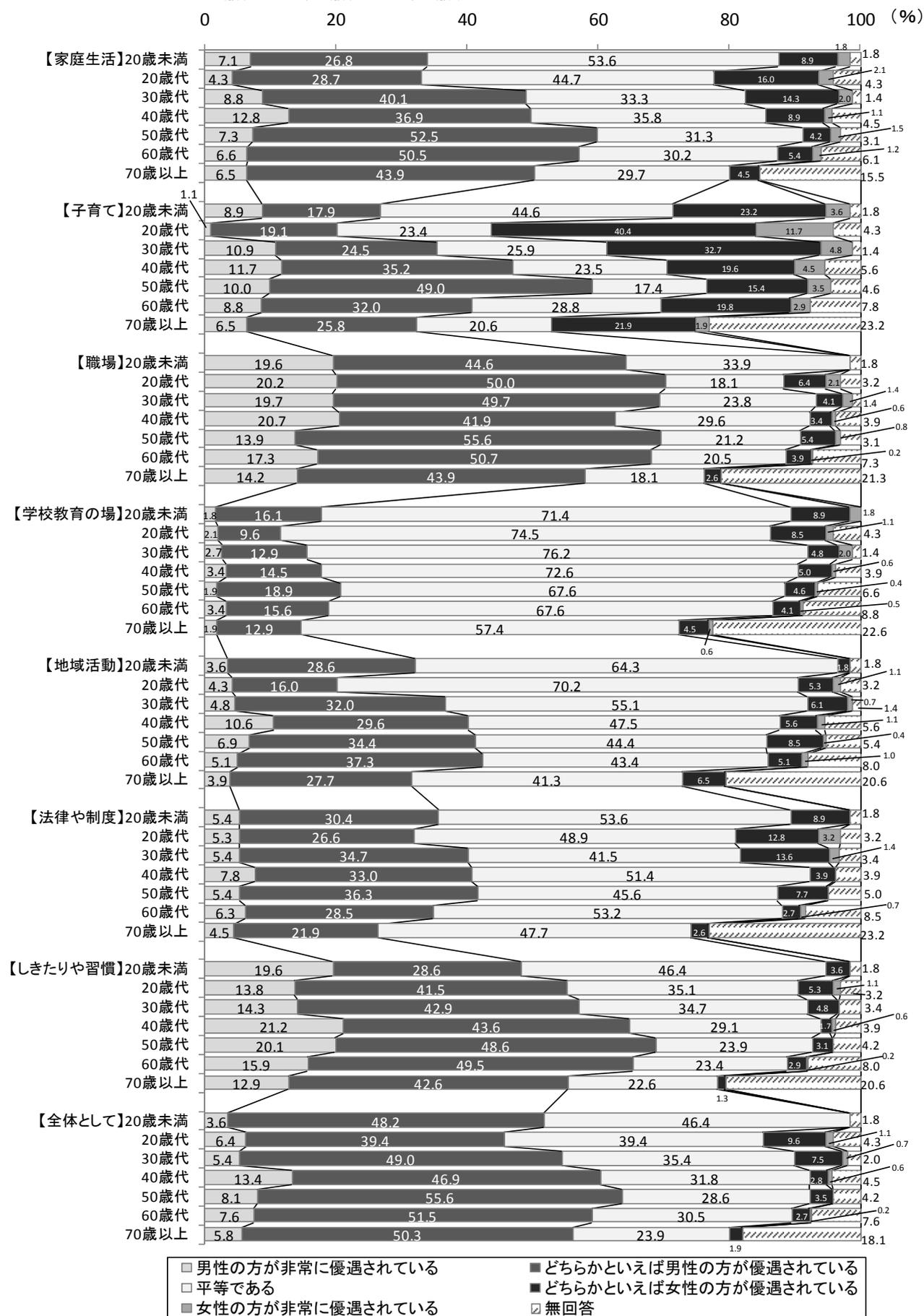
男女の平等(性別)

男性N=615、女性N=656



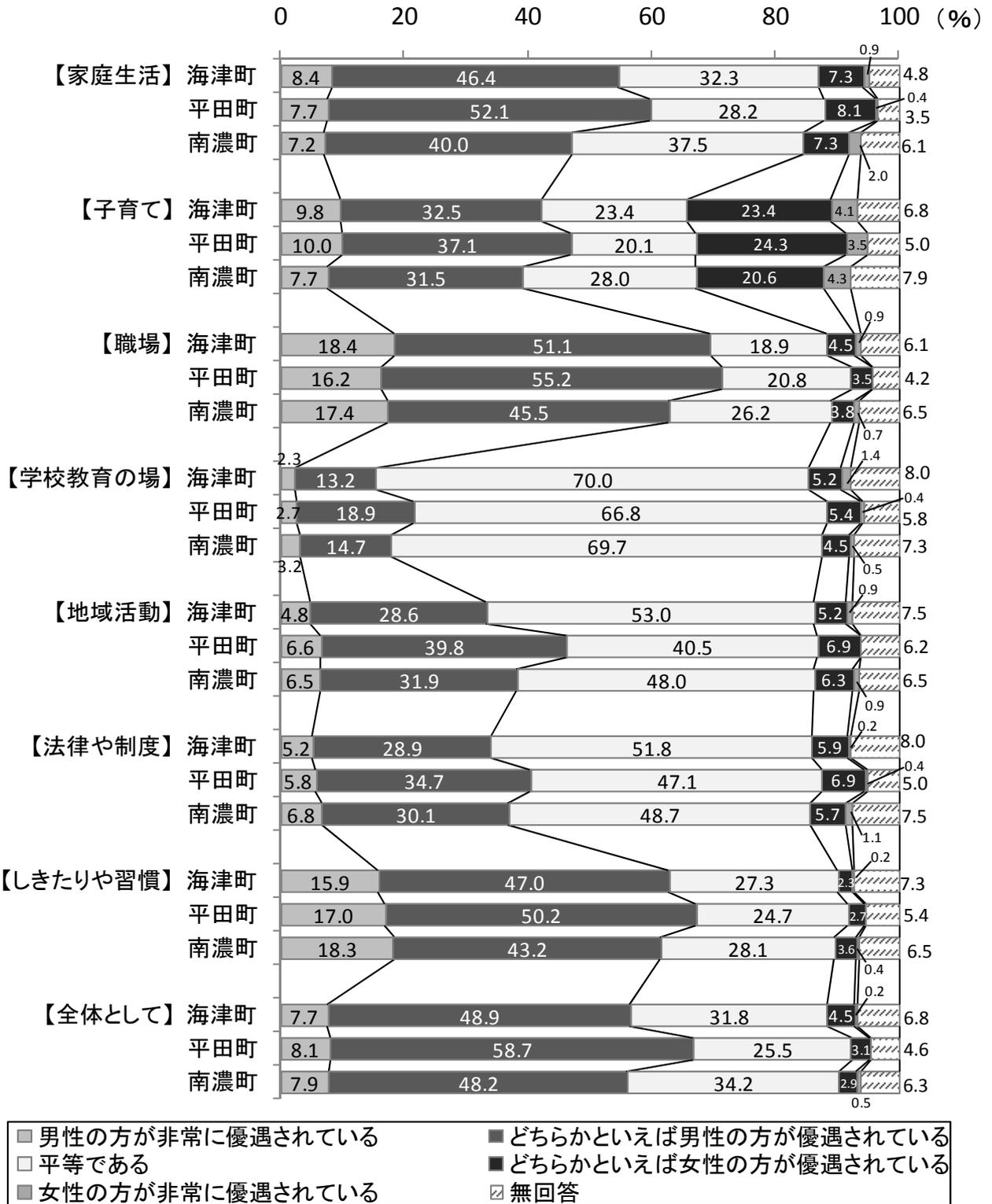
男女の平等(年代別)

20歳未満N=56、20歳代N=94、30歳代N=147、40歳代N=179、
50歳代N=259、60歳代N=410、70歳以上N=155



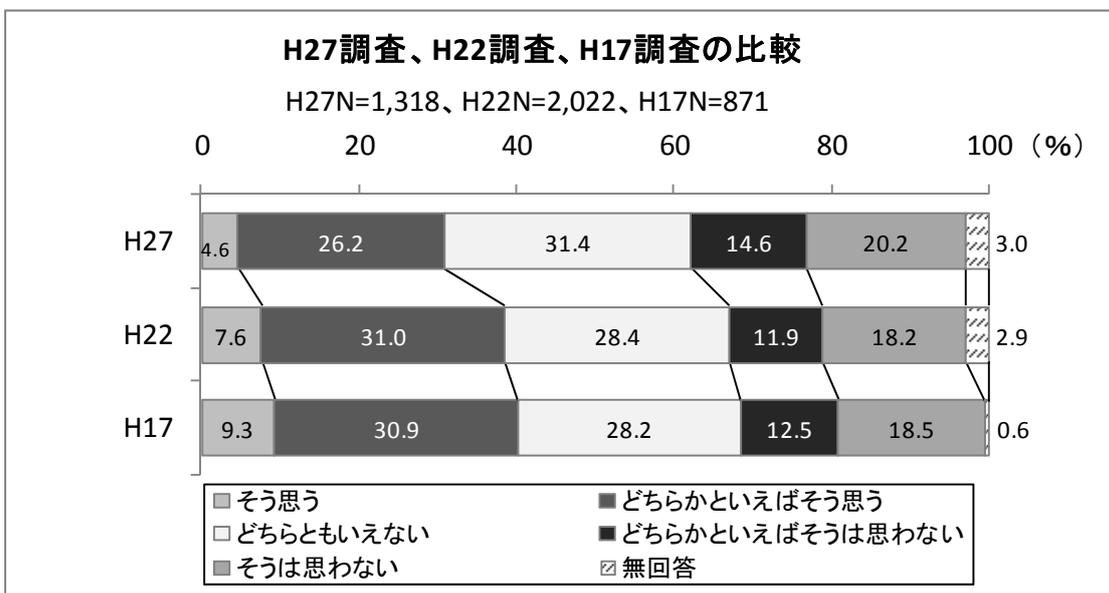
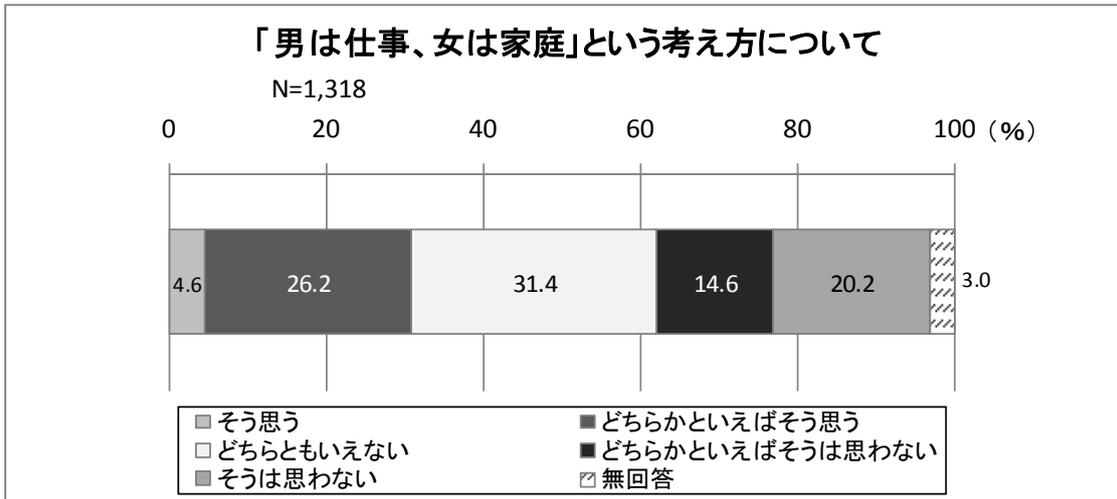
男女の平等(町別)

海津町N=440、平田町N=259、南濃町N=558



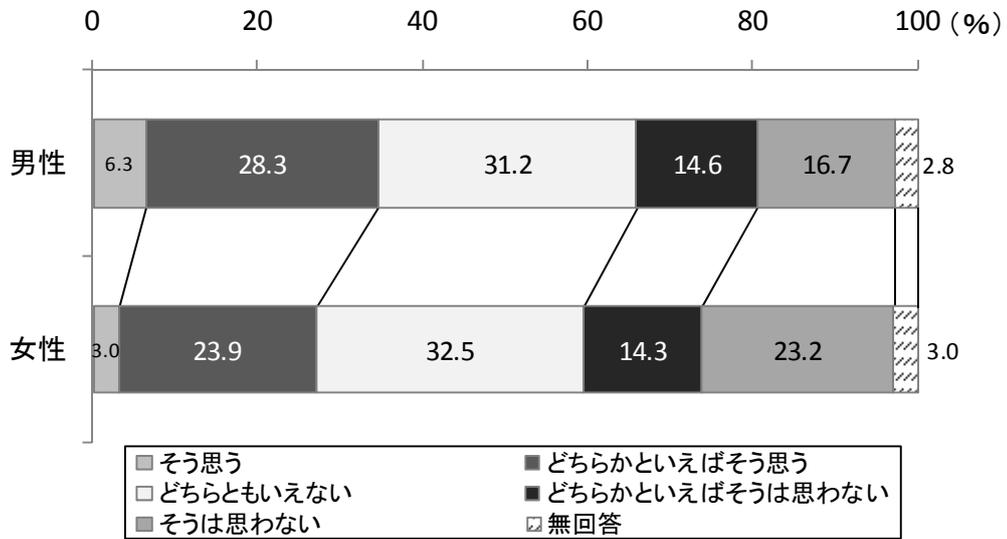
問28 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どのように思いますか。

- 「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合は30.8%、「そう思わない／どちらかといえばそう思わない」と回答した人の割合は34.8%であり、両者の回答の差はあまりない。
- H22の調査と比較すると、「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合は7.8%減少している。一方、「そう思わない／どちらかといえばそう思わない」と回答した人の割合は4.7ポイント上昇している。
- 年代別に比較すると、「そう思わない／どちらかといえばそう思わない」と回答した人の割合が最も多かったのは、20歳未満の55.3%、次いで20歳代の50%となっている。年代が上がるとともに、徐々に減少傾向にある。
- 「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合が最も多かったのは、70歳以上の36.8%、次いで60歳代の35.8%となっている。また、60歳代から「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合が、「そう思わない／どちらかといえばそう思わない」と回答した人の割合を上回っている。このことから、特に高い年代の中で古き日本の慣習が意識として根強く残っていると考えられる。



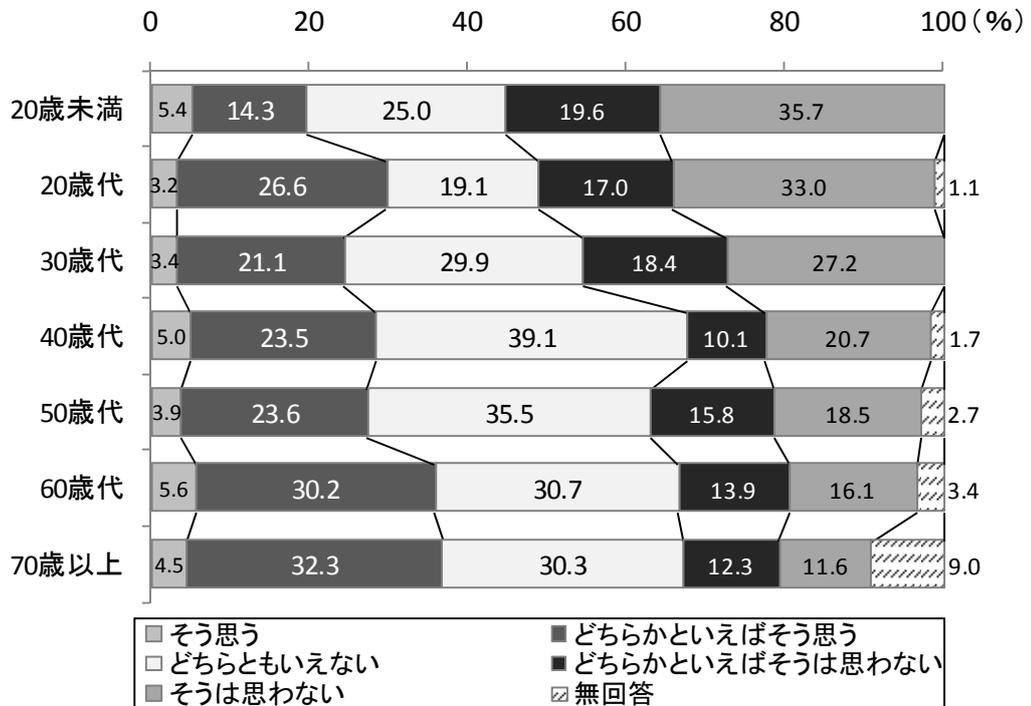
「男は仕事、女は家庭」という考え方について(性別)

男性N=615、女性N=656



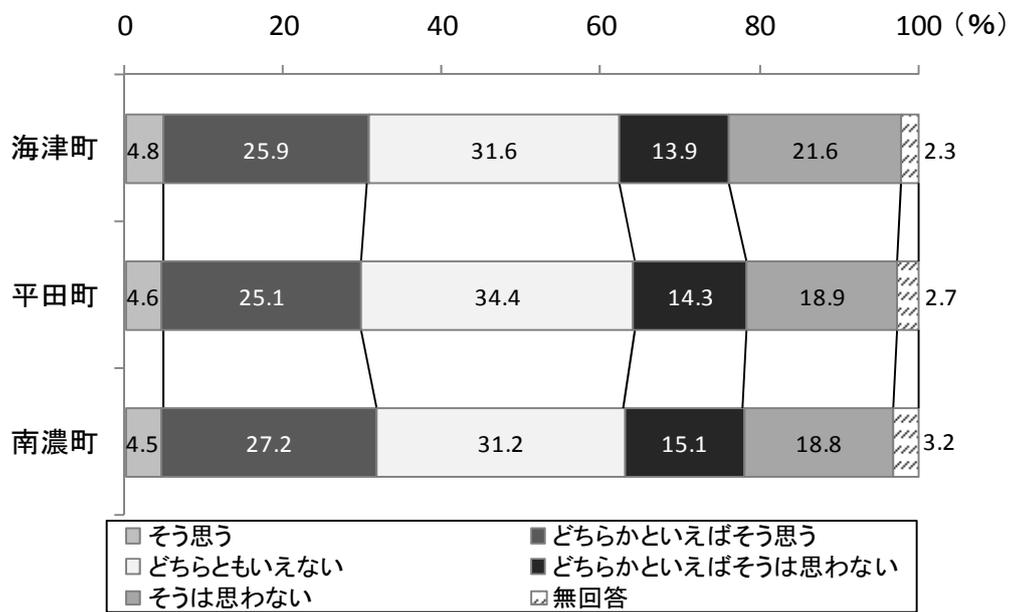
「男は仕事、女は家庭」という考え方について(年代別)

20歳未満N=56、20歳代N=94、30歳代N=147、40歳代N=179、
50歳代N=259、60歳代N=410、70歳以上N=155



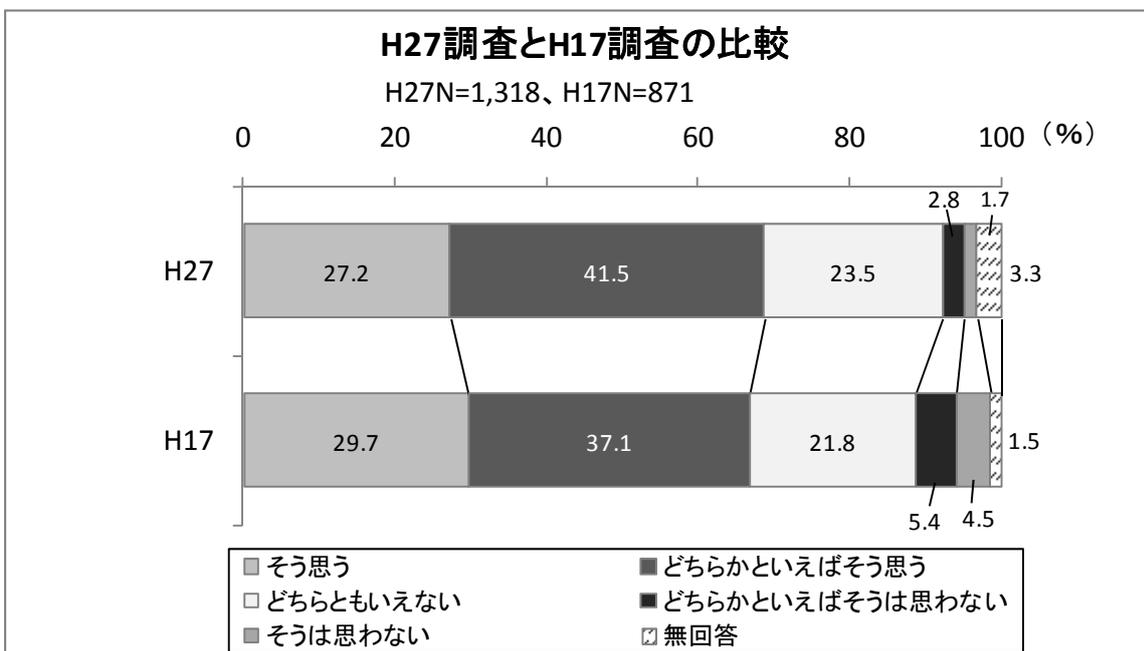
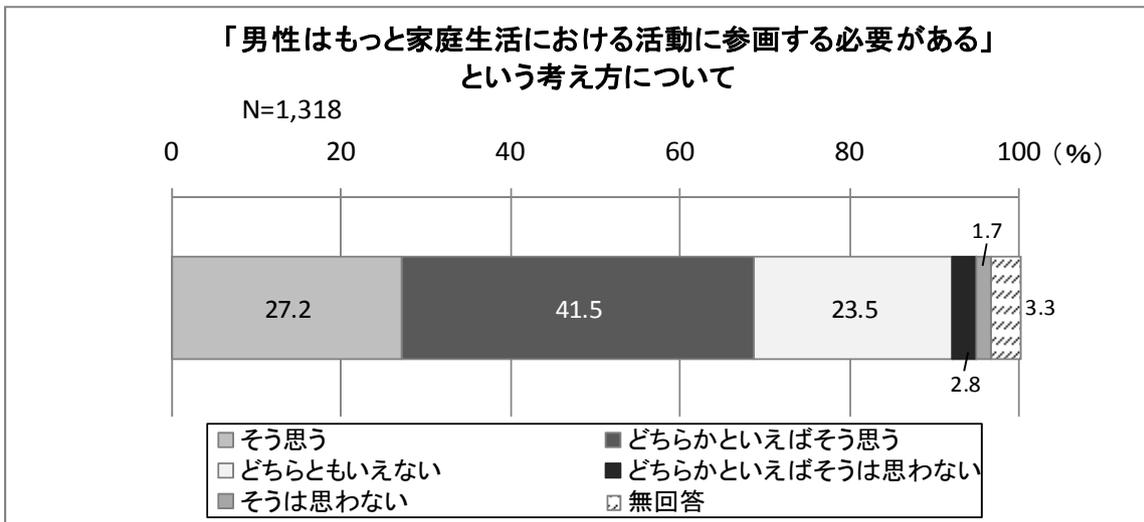
「男は仕事、女は家庭」という考え方について(町別)

海津町N=440、平田町N=259、南濃町N=558



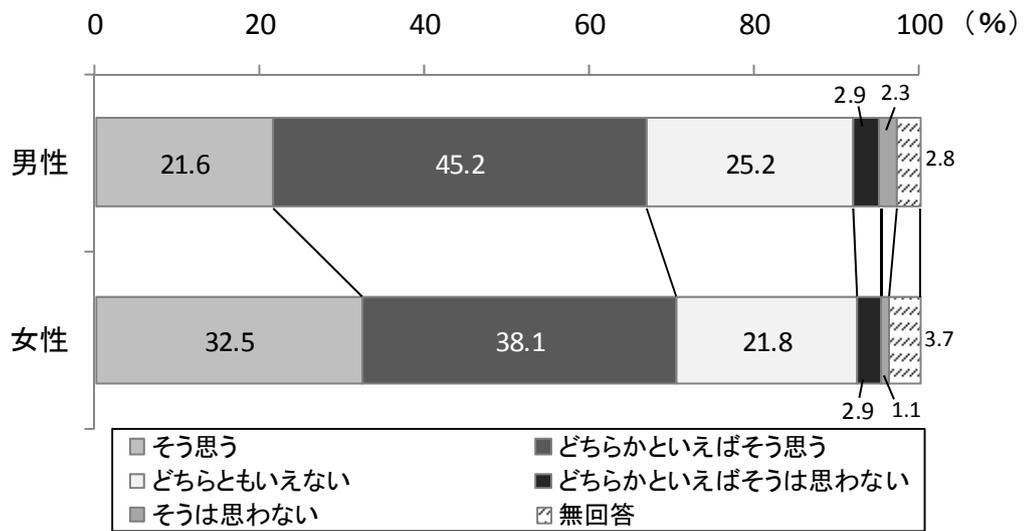
問29 「男性はもっと家庭生活における活動に参画する必要がある」という考え方について、どのように思いますか。

- 「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合は68.7%、「そう思わない／どちらかといえばそう思わない」と回答した割合は、4.5%となっており、「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合が「そう思わない／どちらかといえばそう思わない」と回答した割合を64.2ポイント上回っている。
- H17の調査と比較すると、大きな差はなく、意識の変化はほとんど見られない。
- 性別で比較すると、女性の方が「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した割合がわずかに高い。
- 年代別に比較すると、「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した割合が最も多いのは20歳代の78.7%、次いで20歳未満の73.3%となっている。全体的に60%を超えているが、若い年代になるほど高い。
- 一方で、「そう思わない／どちらかといえばそう思わない」と回答した割合は、どの年代においてもおおよそ5%程度となっており、大きな差はない。



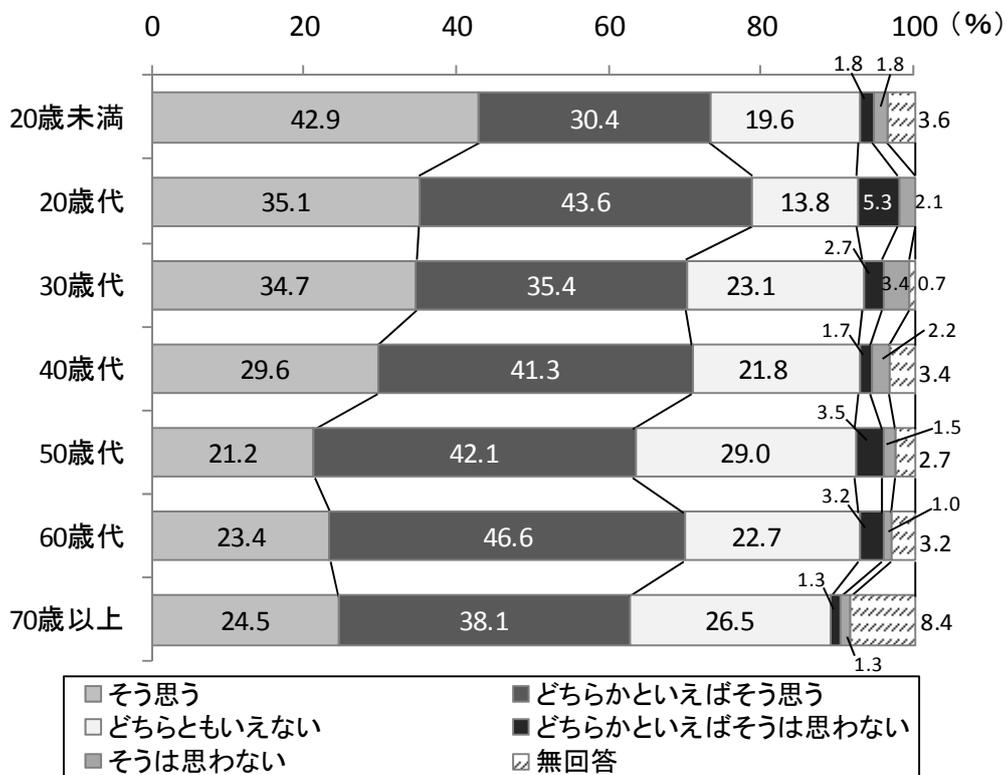
「男性はもっと家庭生活における活動に参画する必要がある」という考え方について(性別)

男性N=615、女性N=656



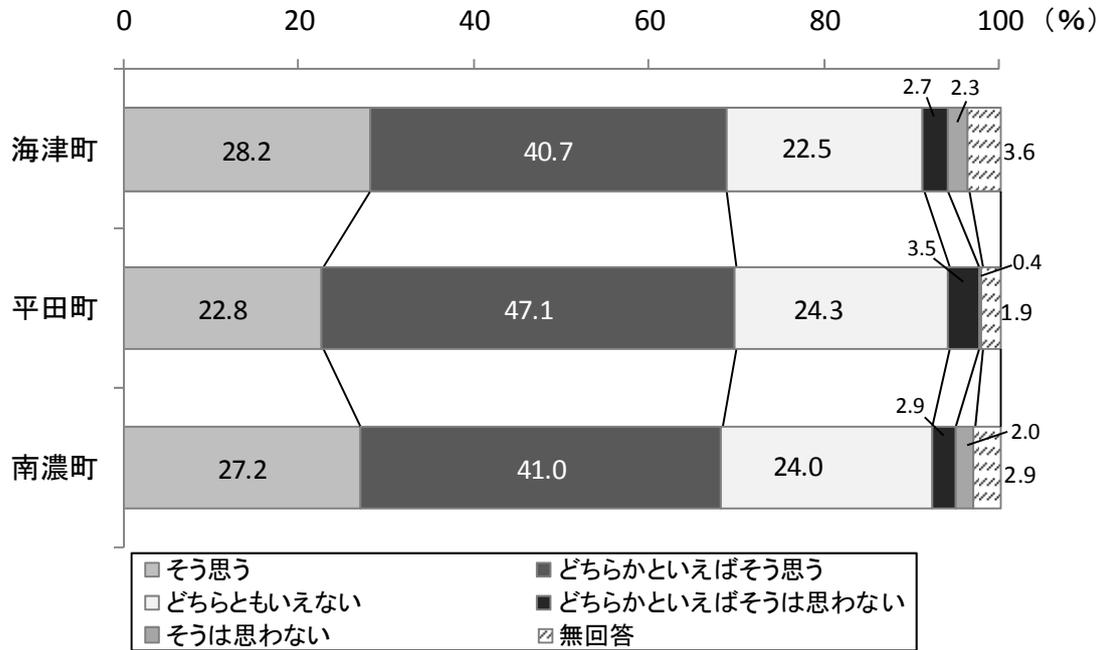
「男はもっと家庭生活における活動に参画する必要がある」という考え方について(年代別)

20歳未満N=56、20歳代N=94、30歳代N=147、40歳代N=179、50歳代N=259、60歳代N=410、70歳以上N=155



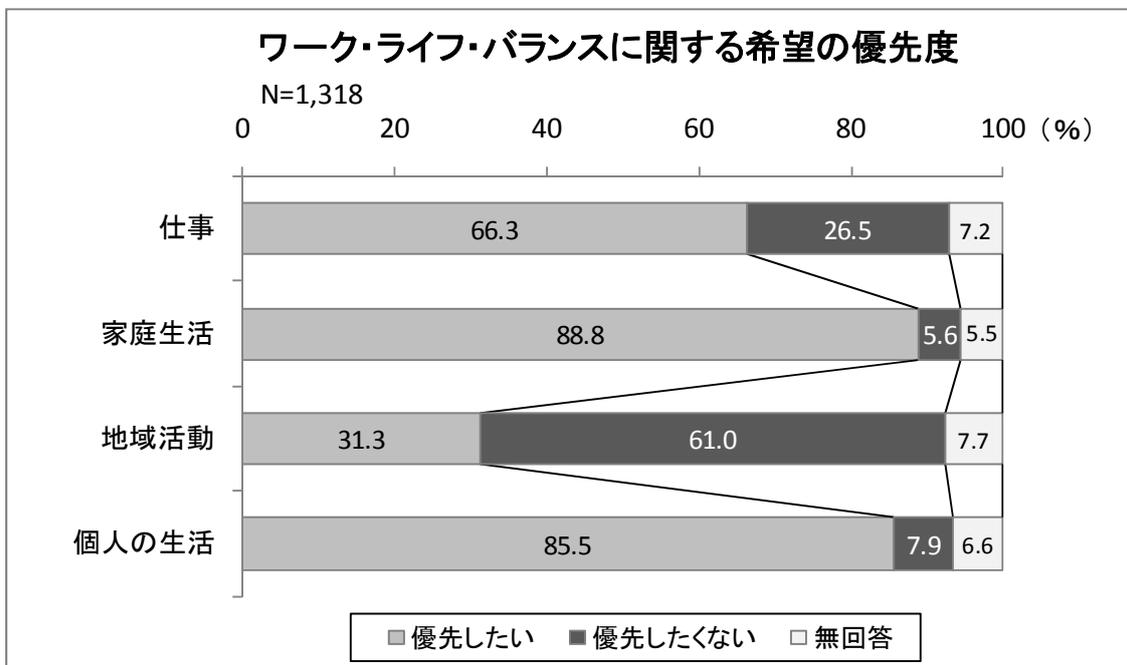
「男性はもっと家庭生活における活動に参画する必要がある」という考え方について(町別)

海津町N=440、平田町N=259、南濃町N=558



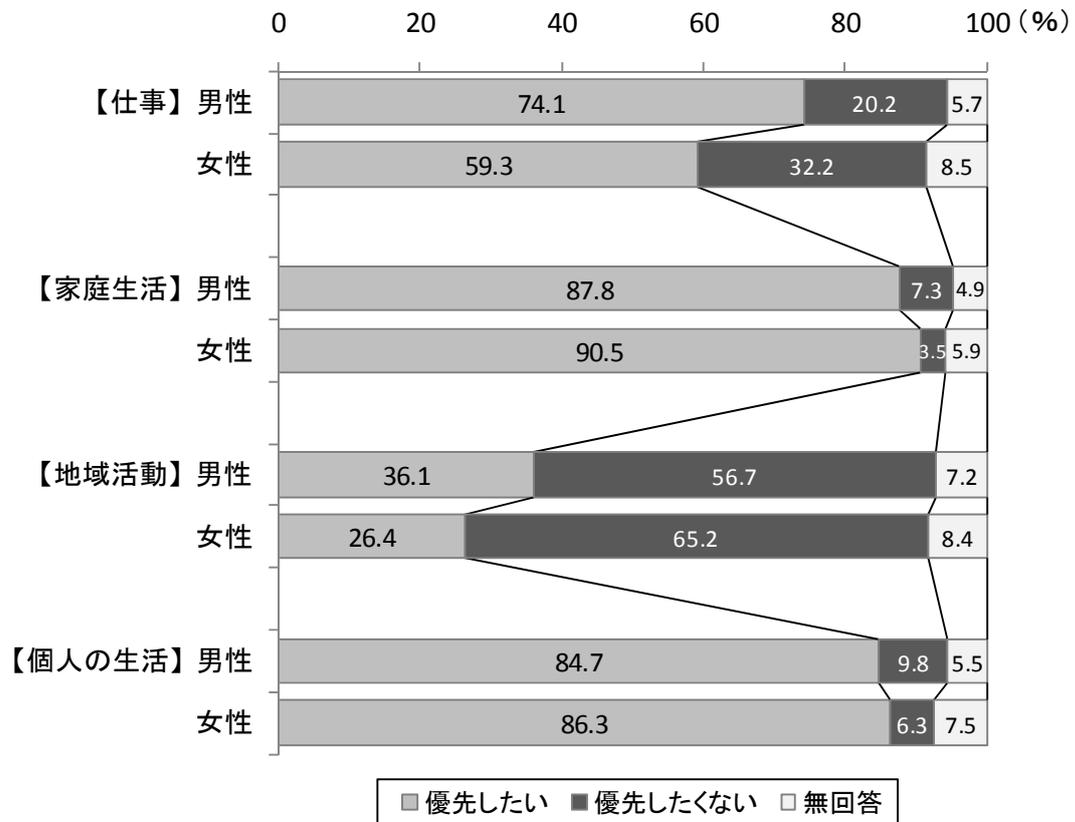
問 30 「仕事」「家庭生活」「地域活動」「個人の生活」の優先度について、あなたの希望に最も近いものを選んでください。

- 「優先したい」と回答した割合が最も多かったのは「家庭生活」の88.8%、次いで「個人の生活」の85.5%となっている。また、仕事を「優先したい」と回答した人の割合は、66.3%にとどまっている。性別で比較すると、大きな差はなく、性別を問わず自分自身の「生活面」を優先したいと考えている人が多い。また、仕事を「優先したい」と回答した人の割合は、男性が女性を14.8ポイント回っており、家庭の生計を支える一家の柱としての意識も影響していると考えられる。
- 年代別に比較すると、家庭と個人の生活のどちらも20歳未満～40歳代にかけて「優先したい」と回答した割合が約90%を占め、以降緩やかに減少している。また、仕事を「優先したい」と回答した人の割合が最も多かったのは、20歳未満の87.5%である。以降、減少傾向にあるが、子育てを終えた人が多い50歳代から、緩やかな上昇傾向にある。
- 「優先したくない」と回答した人の割合が最も多かったのは「地域活動」の61%、次いで「仕事」の26.5%である。
- 「優先したくない」と回答した人を性別で比較すると、「地域活動」「仕事」の両項目において、どちらも男性より女性の割合が約10ポイント程度高い。「地域活動」について、年代別に比較すると、20歳未満～50歳代まで約70%近い割合の人が「優先したくない」と回答している。その一方で、60歳代から約10ポイントずつ減少していることから、独身者の多い若い世代や子育て世代、仕事をしている人が多い世代においては、自分自身の生活や家庭生活が中心になっていると思われ、精神的・時間的な諸事情で余裕がないことから、地域の活動まで活動の幅を広げることが難しいのではないかと考えられる。



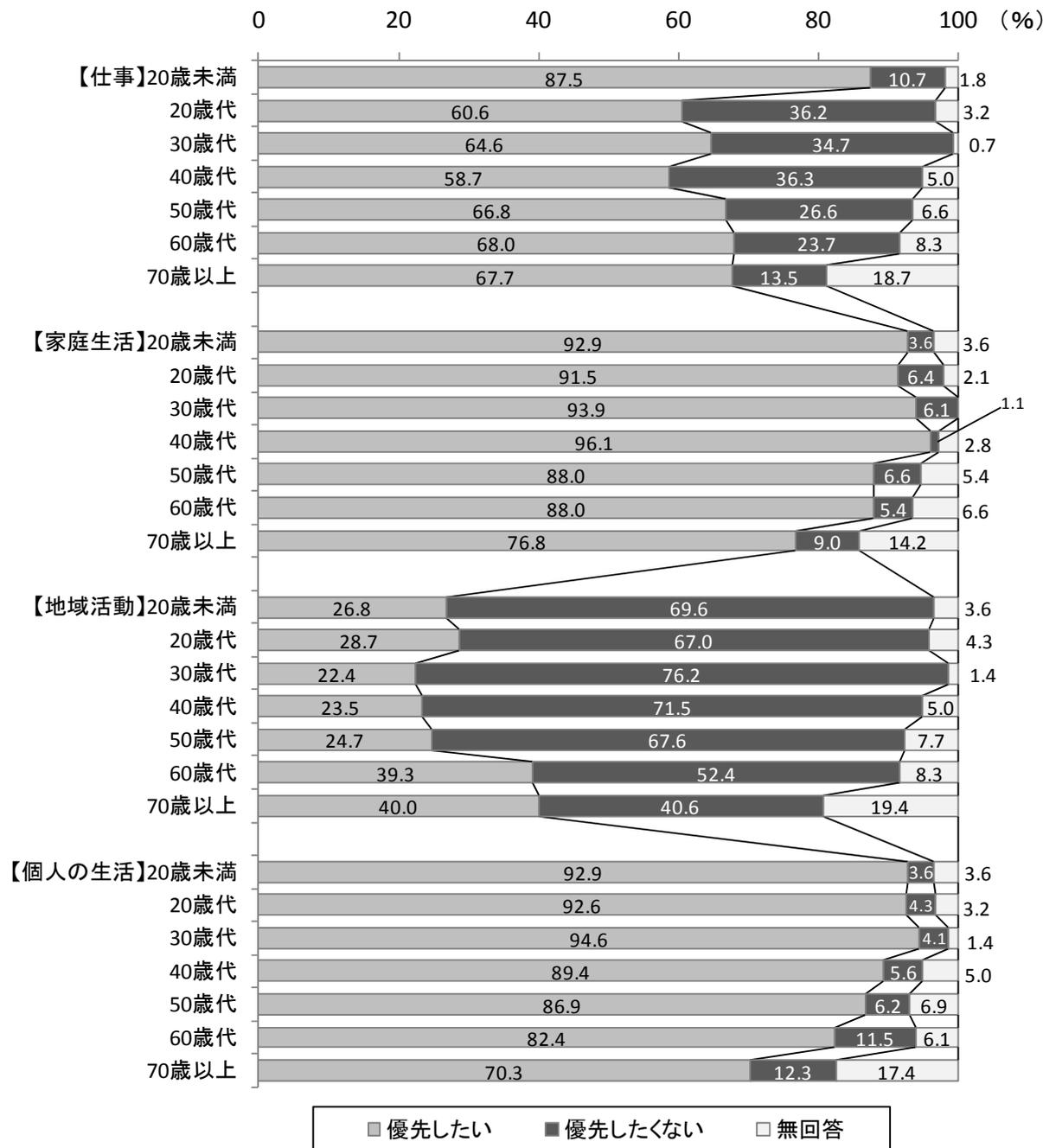
ワーク・ライフ・バランスに関する希望の優先度(性別)

男性N=615、女性N=656



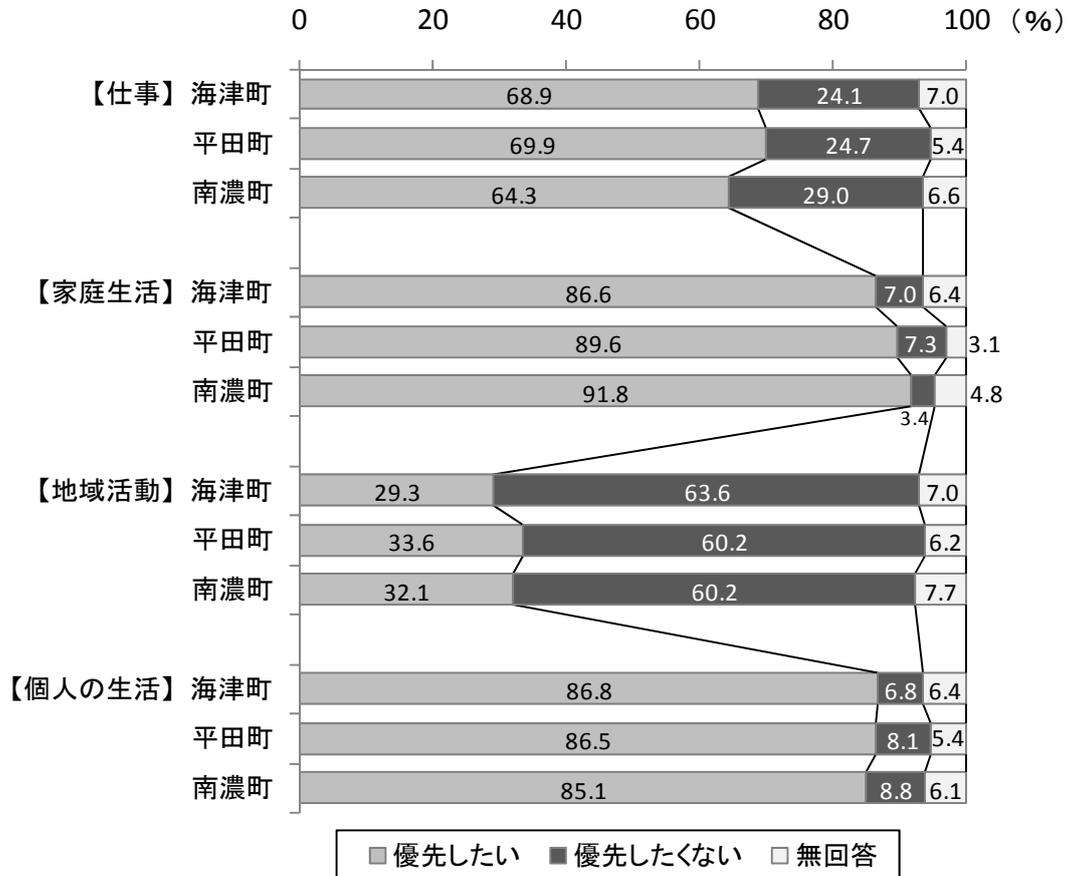
ワーク・ライフ・バランスに関する希望の優先度(年代別)

20歳未満N=56、20歳代N=94、30歳代N=147、40歳代N=179、
50歳代N=259、60歳代N=410、70歳以上N=155



ワーク・ライフ・バランスに関する希望の優先度(町別)

海津町N=440、平田町N=259、南濃町N=558



問 31 前問の考え方に対して、あなたの現実（現状）に最も近いものを選んでください。

○前問と比較すると、「優先したいと（希望）と優先している（現実）」の差がもっとも少ないものは、「仕事」で希望と現実の割合の差が2.6%、次いで「地域活動」の3.4%となっている。一方で、差がもっとも大きいものは、「個人の生活」の22.8%、「家庭生活」の18.5%となっている。このことから、前問でも「個人の生活」や「家庭生活」を優先したいと希望する割合が高かったが、希望と現実の差が少ない結果から、仕事と地域活動等により個人及び家庭の生活が優先できていないことが分かる。

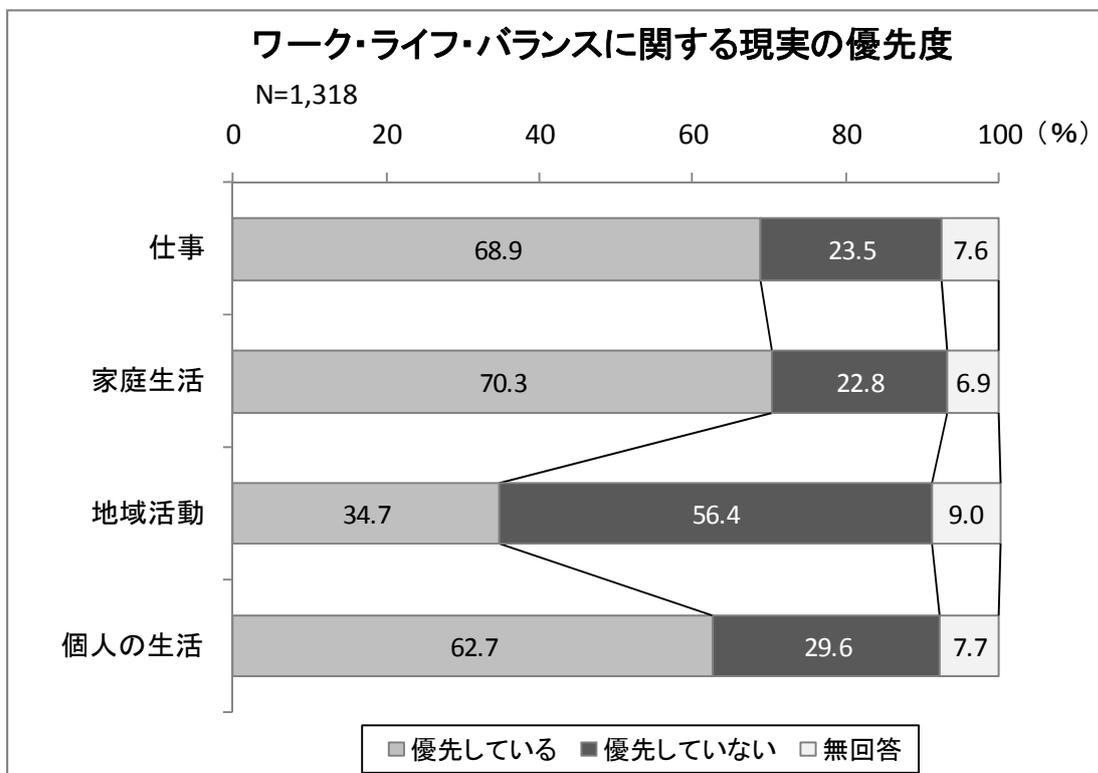
○性別で比較すると、「家庭生活」以外のすべての項目で、男性が女性よりも現実的に優先している。

○年代別に比較すると、20歳未満で仕事・個人の生活を優先していると回答した人が両項目とも約80%以上となっている。

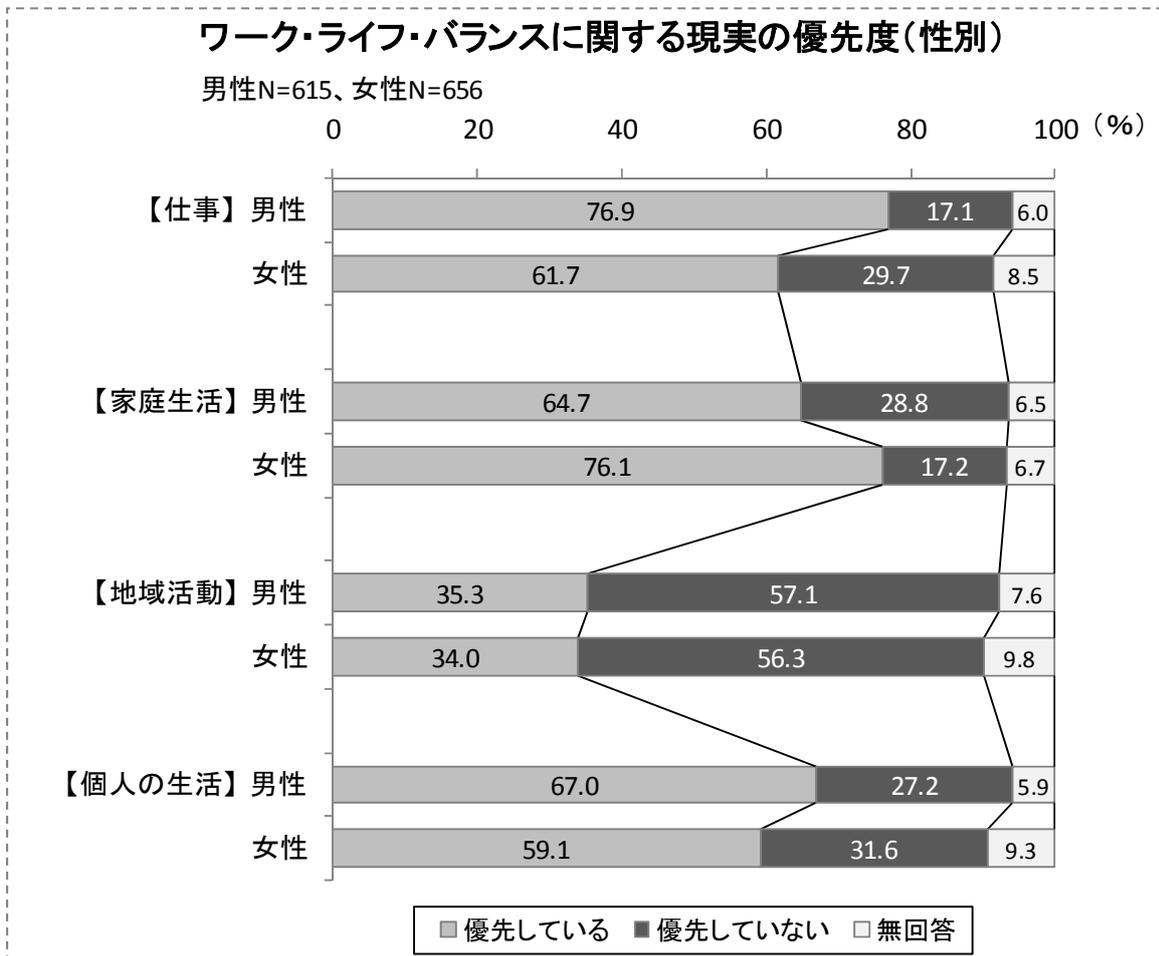
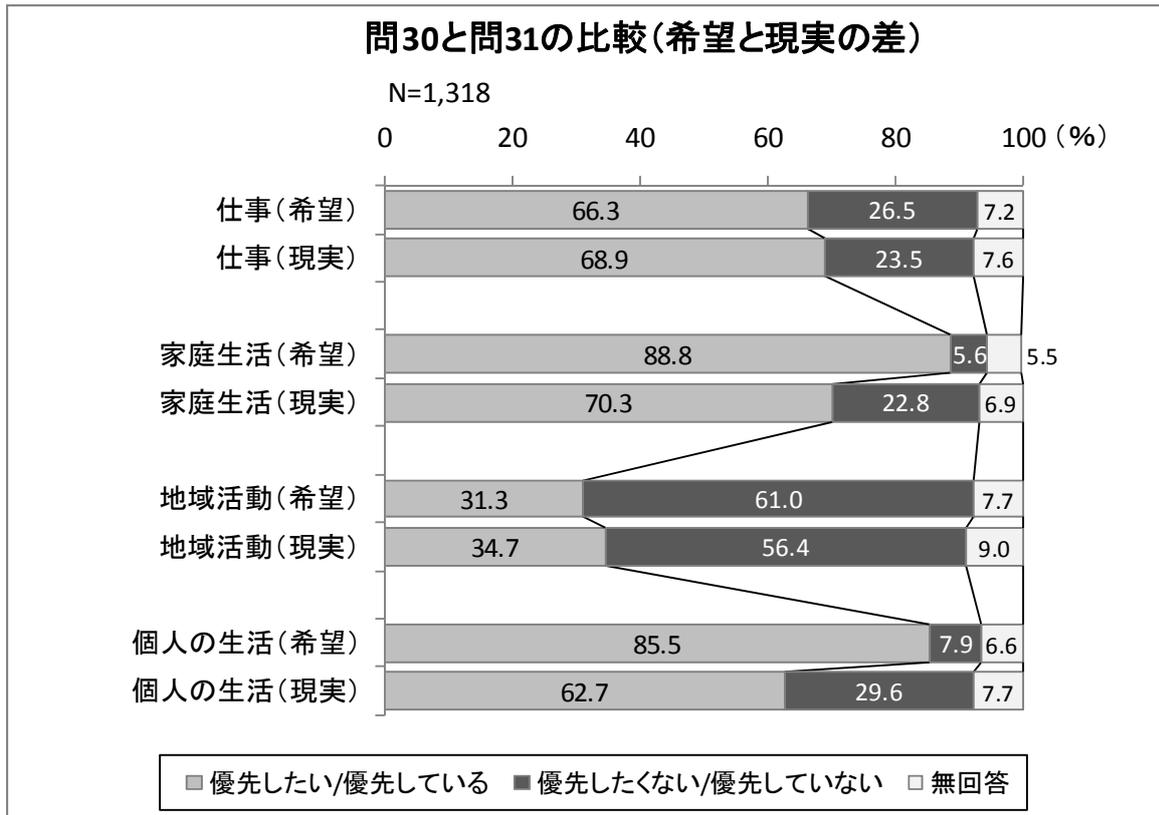
一方で、出産、子育て世代の30歳代と40歳代は、個人の生活を「優先している」と回答した人の割合は、20歳未満、20歳代よりも減少し、40歳代においては「優先していない」と回答した人の割合が43%と最も多くなっている。

○「優先していない」と回答した人の割合が最も高かったのは、「地域活動」の56.4%、次いで「個人の生活」の29.6%となっている。

○前問との比較でも、地域活動について「希望」と「現実」の差は少なく、地域活動を行う以前に、地域活動を行いたいと希望する人自体が少ないことが分かる。性別で比較すると、男女において差はそれほどない。また、年代別で比較すると、若い世代ほど優先していないと回答する人の割合が高く、年齢が高くなるにつれて優先していると回答する人の割合が高くなっている。

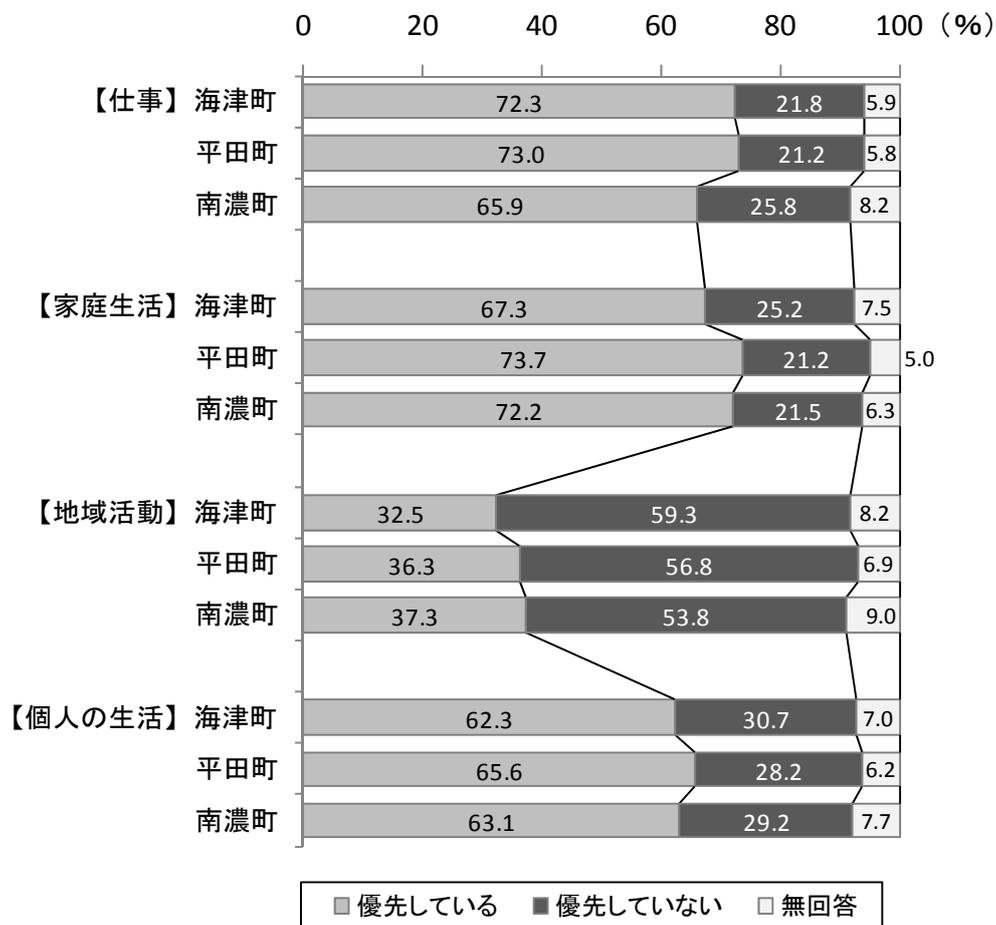


参考：問30と問31の比較



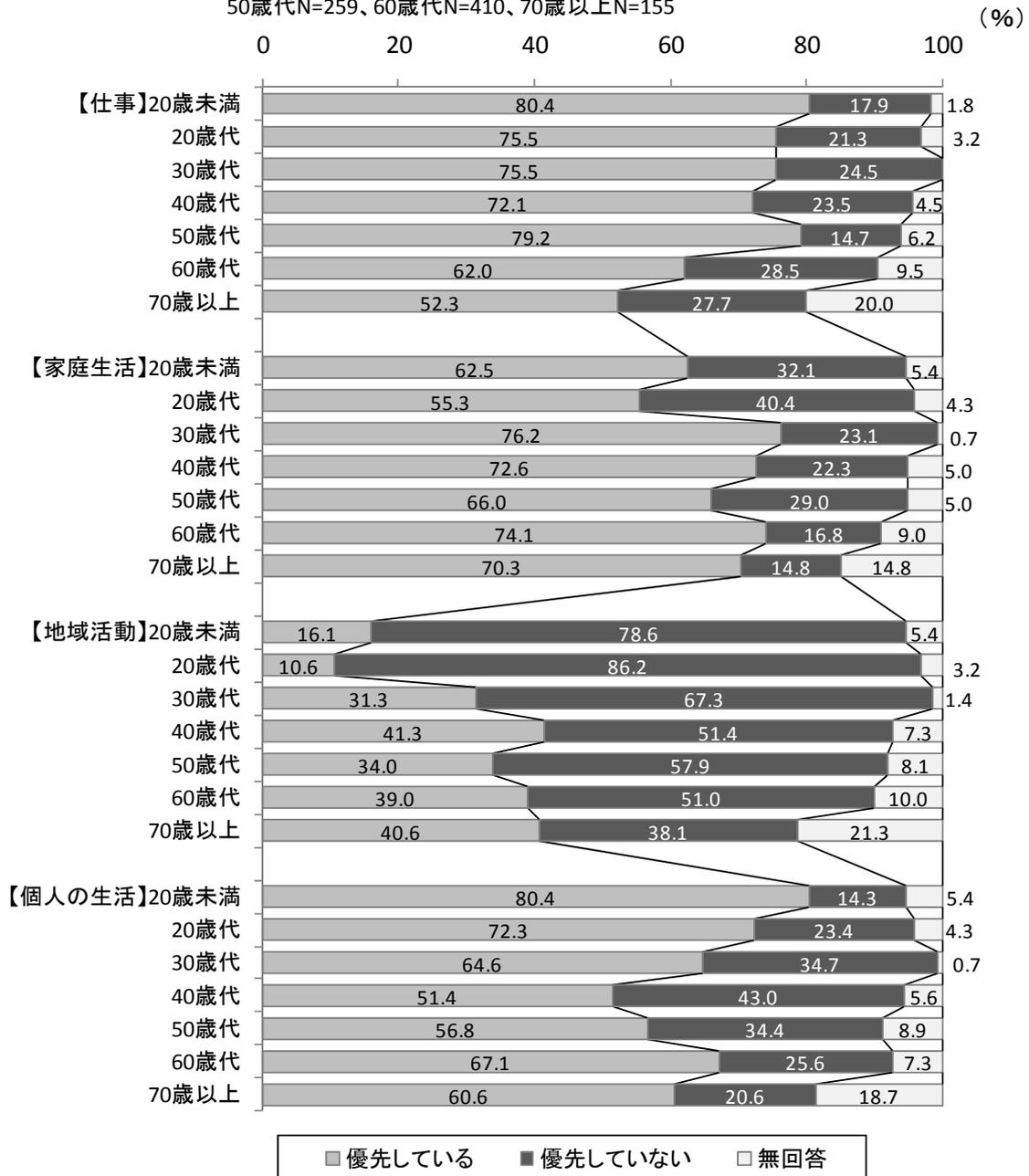
ワーク・ライフ・バランスに関する現実の優先度(町別)

海津町N=440、平田町N=259、南濃町N=558



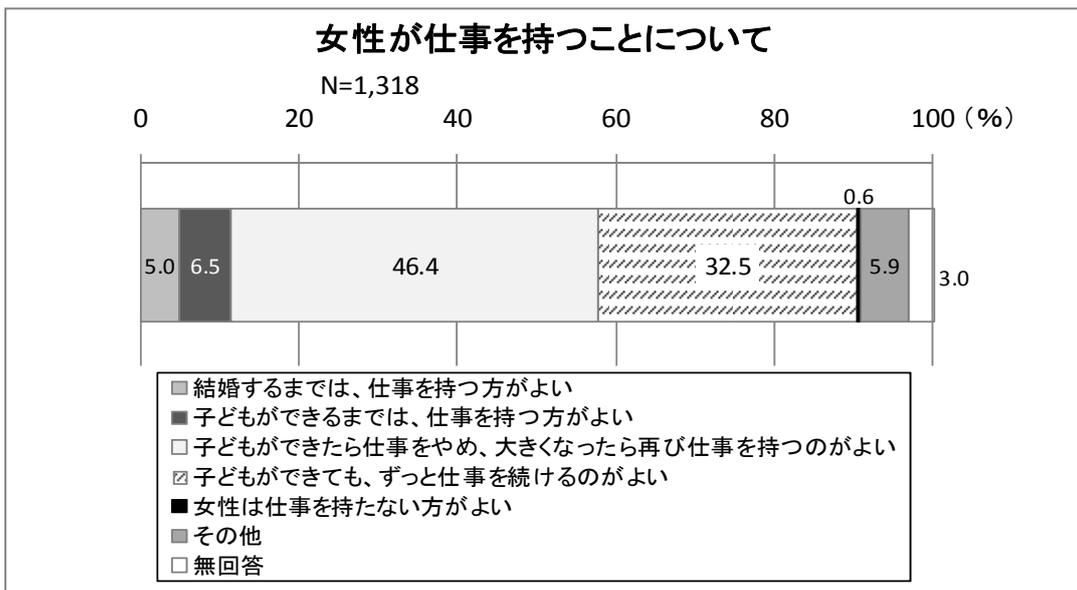
ワーク・ライフ・バランスに関する現実の優先度(年代別)

20歳未満N=56、20歳代N=94、30歳代N=147、40歳代N=179、
50歳代N=259、60歳代N=410、70歳以上N=155



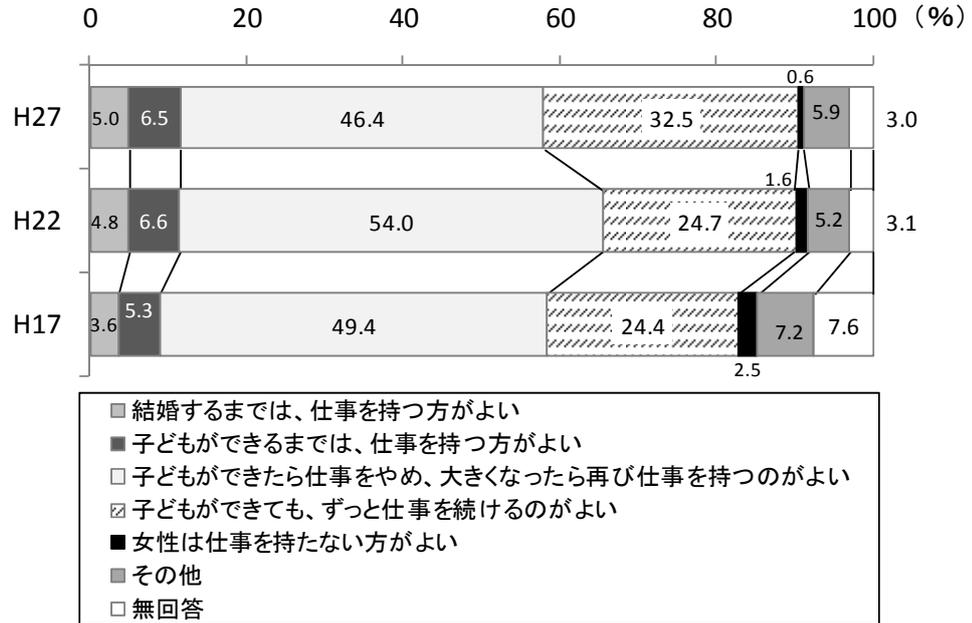
問32 女性が仕事を持つことについてどう思いますか。

- 「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら仕事を再び持つのがよい」と回答した人の割合は、46.4%で最も多く、次いで「子どもができて、ずっと仕事を続けるのがよい」と回答した人の割合が32.5%であった。合算すると、約80%が出産後の女性が仕事を持つことについて前向きな考えでいることが分かる。
- H22の調査と比較したところ、特に「子どもができて、ずっと仕事を続けるのがよい」と回答した人の割合が7.8ポイント上昇しており、一度離職するのではなく、育児休業制度などを利用し、会社で働き続けることを望んでいることが分かる。
- 性別で比較すると、大きな差はない。
- 年代別で比較すると、「子どもができて、ずっと仕事を続けるのがよい」と回答した人の割合は、30歳代で大きく上昇しており、最も高い40.1%となっている。平均の出生年齢が30歳以上となっていることもあり、出産平均年代で特に関心が高く、仕事と家庭を両立したいと考えている人が多いことが分かる。
- 一方で、「結婚するまで」や「子どもができるまで」仕事を続けるほうがよい、という意見は年代に関わらず少ない。結婚や出産を経験しても一度離職する・しないに関わらず仕事をしていくことについて、半数以上の人々が前向きに考えており、結婚や出産を機に家庭に入るといった意識が薄くなっている。



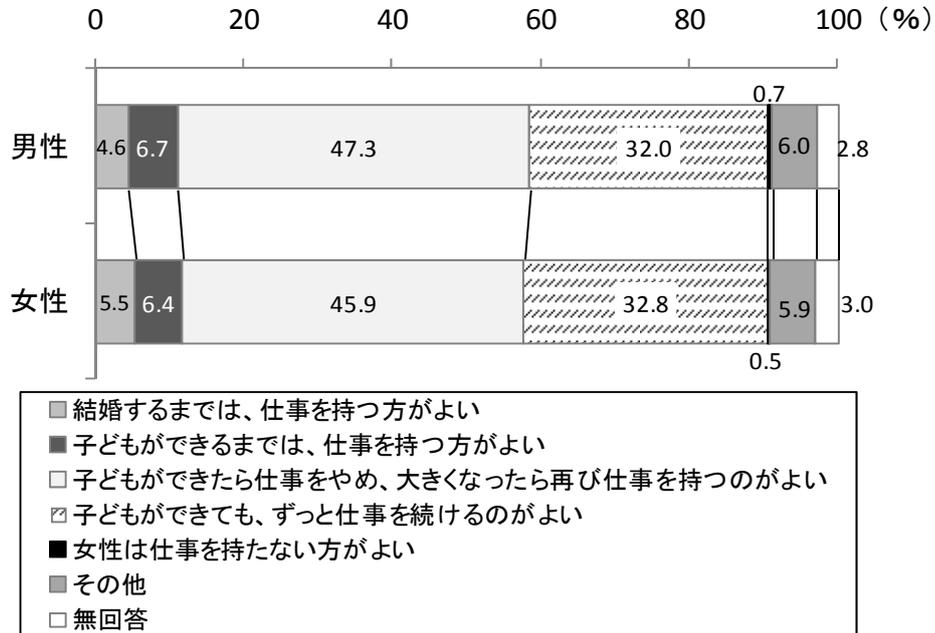
H27調査、H22調査、H17調査の比較

H27N=1,318、H22N=2,022、H17N=871



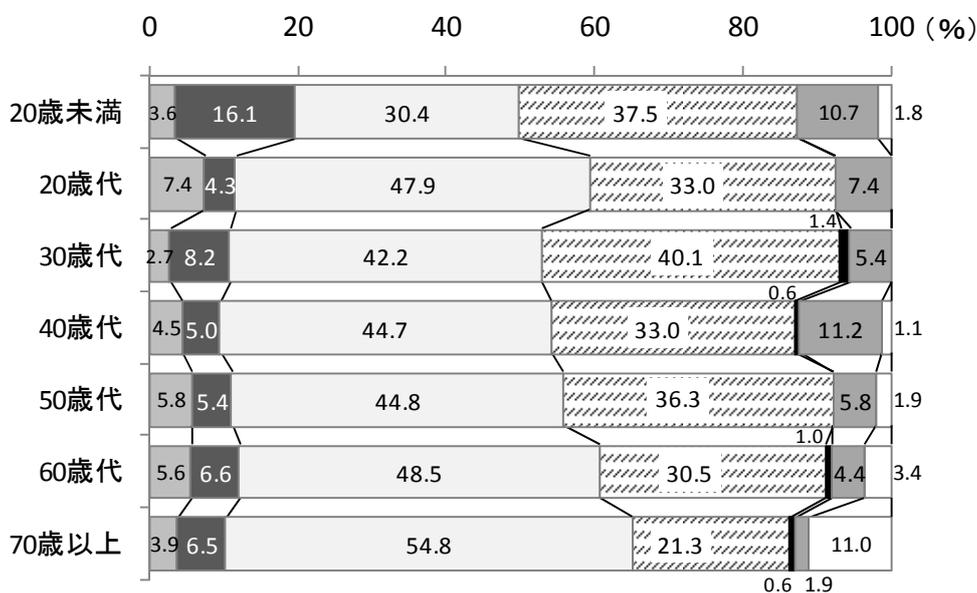
女性が仕事を持つことについて(性別)

男性N=615、女性N=656



女性が仕事を持つことについて(年代別)

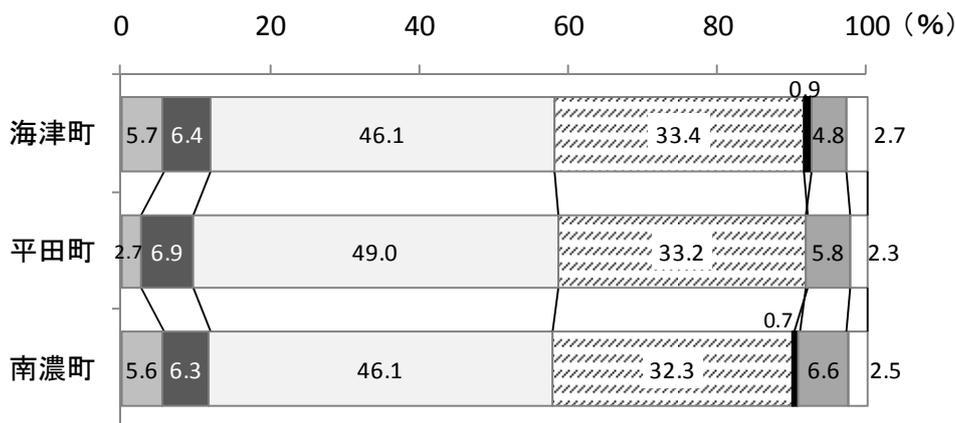
20歳未満N=56、20歳代N=94、30歳代N=147、40歳代N=179、
50歳代N=259、60歳代N=410、70歳以上N=155



- 結婚するまでは、仕事を持つ方がよい
- 子どもができるまでは、仕事を持つ方がよい
- 子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つのがよい
- ▨ 子どもができて、ずっと仕事を続けるのがよい
- 女性は仕事を持たない方がよい
- その他
- 無回答

女性が仕事を持つことについて(町別)

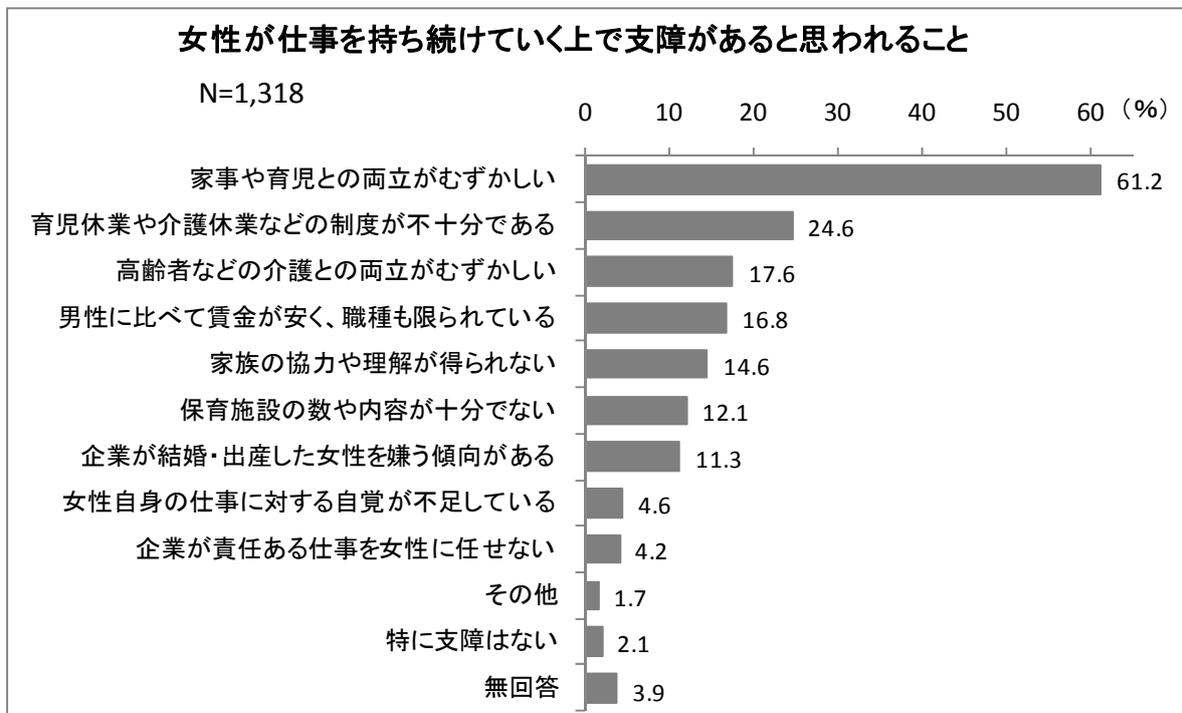
海津町N=440、平田町N=259、南濃町N=558



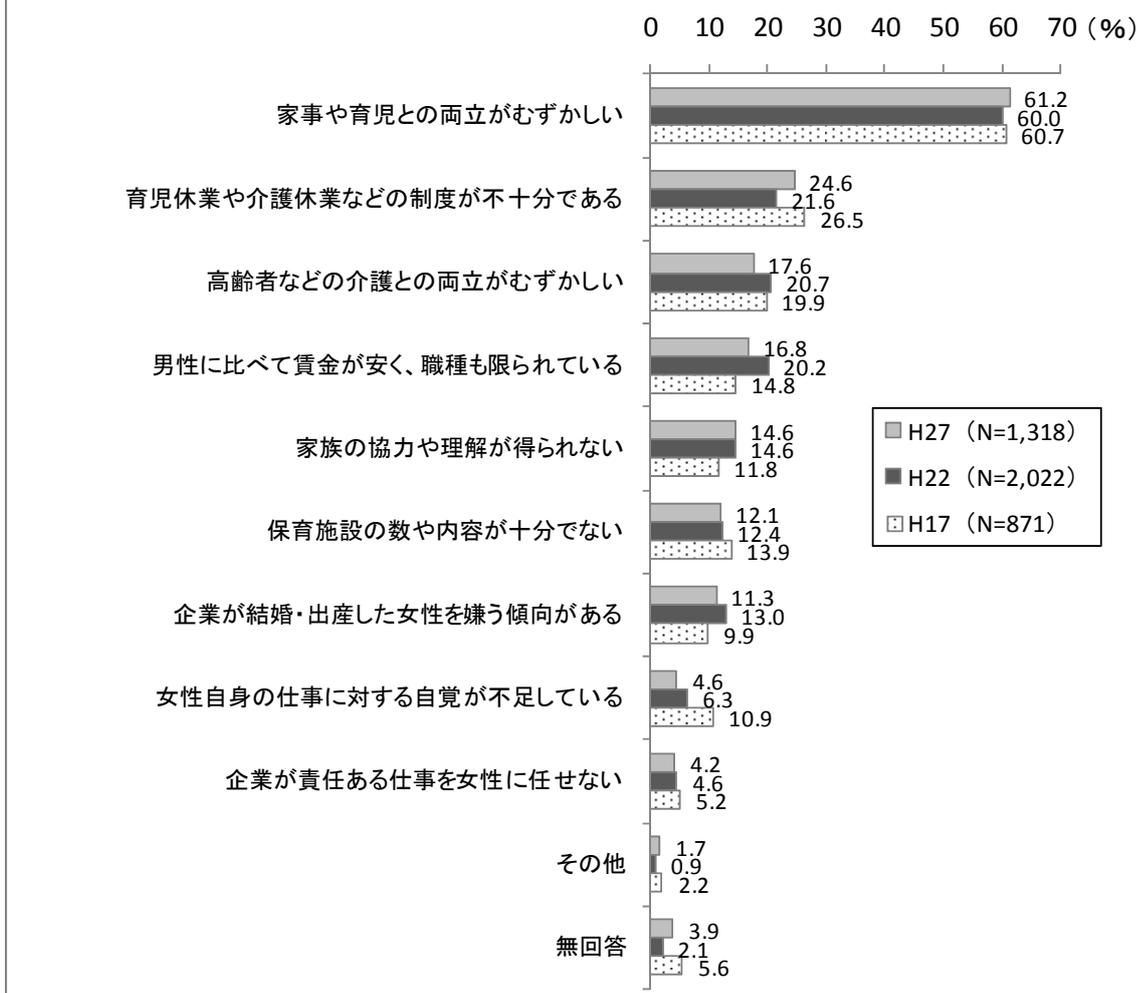
- 結婚するまでは、仕事を持つ方がよい
- 子どもができるまでは、仕事を持つ方がよい
- 子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つのがよい
- ▨ 子どもができて、ずっと仕事を続けるのがよい
- 女性は仕事を持たない方がよい
- その他
- 無回答

問33 女性が仕事をもち続けていくうえで支障があると思われることは何だと思えますか。(回答は2つ以内の複数回答)

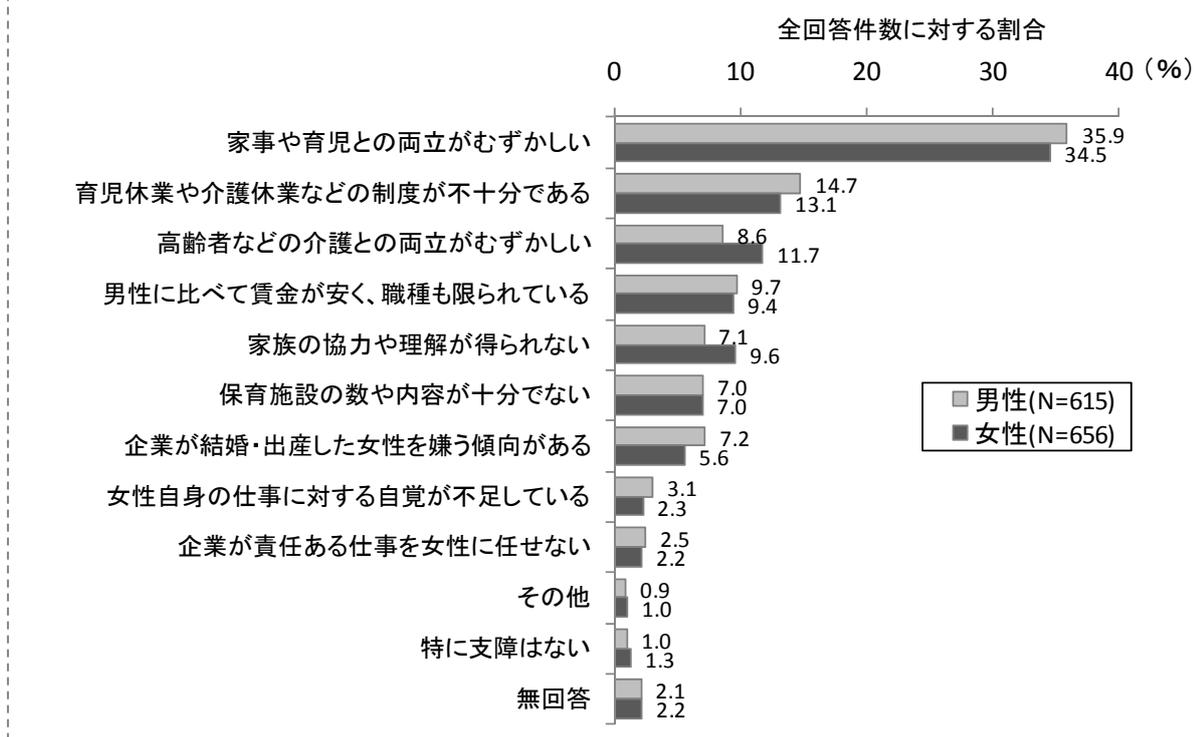
- 女性が仕事をもち続けていく上で支障があると思われると回答した人が最も多かったのは、「家事や育児との両立が難しい」で61.2%、次いで「育児休業や介護休業などの制度が不十分である」で24.6%となった。
- 過去の調査と比較すると、大きな差は見られない。
- 性別で比較すると、大きな差は見られないが、その中でも差がみられる項目として、女性では「高齢者などの介護との両立が難しい」が3.1ポイント、次いで「家族の協力や理解が得られない」が2.5ポイント、男性よりも多くなっている。
- 一方で、男性では「育児休業や介護休業などの制度が不十分である」が1.6ポイント、「企業が結婚・出産した女性を嫌う傾向がある」が1.6ポイント、女性よりも多くなっている。
- このことから、女性は「家庭面」、男性は「労働面」において支障があるのではないかと考えている人が多いことが分かる。
- 年代別に比較すると、「家事や育児との両立がむずかしい」と回答した人の割合は、若い世代で比較的高く、子育てを終える世代になるにつれて徐々に減少している。
- また、「高齢者などの介護との両立がむずかしい」と回答した人の割合は、高齢になるほど高くなっており、このことから自らが子育てや介護などに直面している世代は、その問題を直に感じるができるため、割合が高くなっているのではないかと考えられる。
- 「育児休業や介護休業などの制度が不十分である」と回答した人の割合は、40歳代を除き、10%以上となっている。



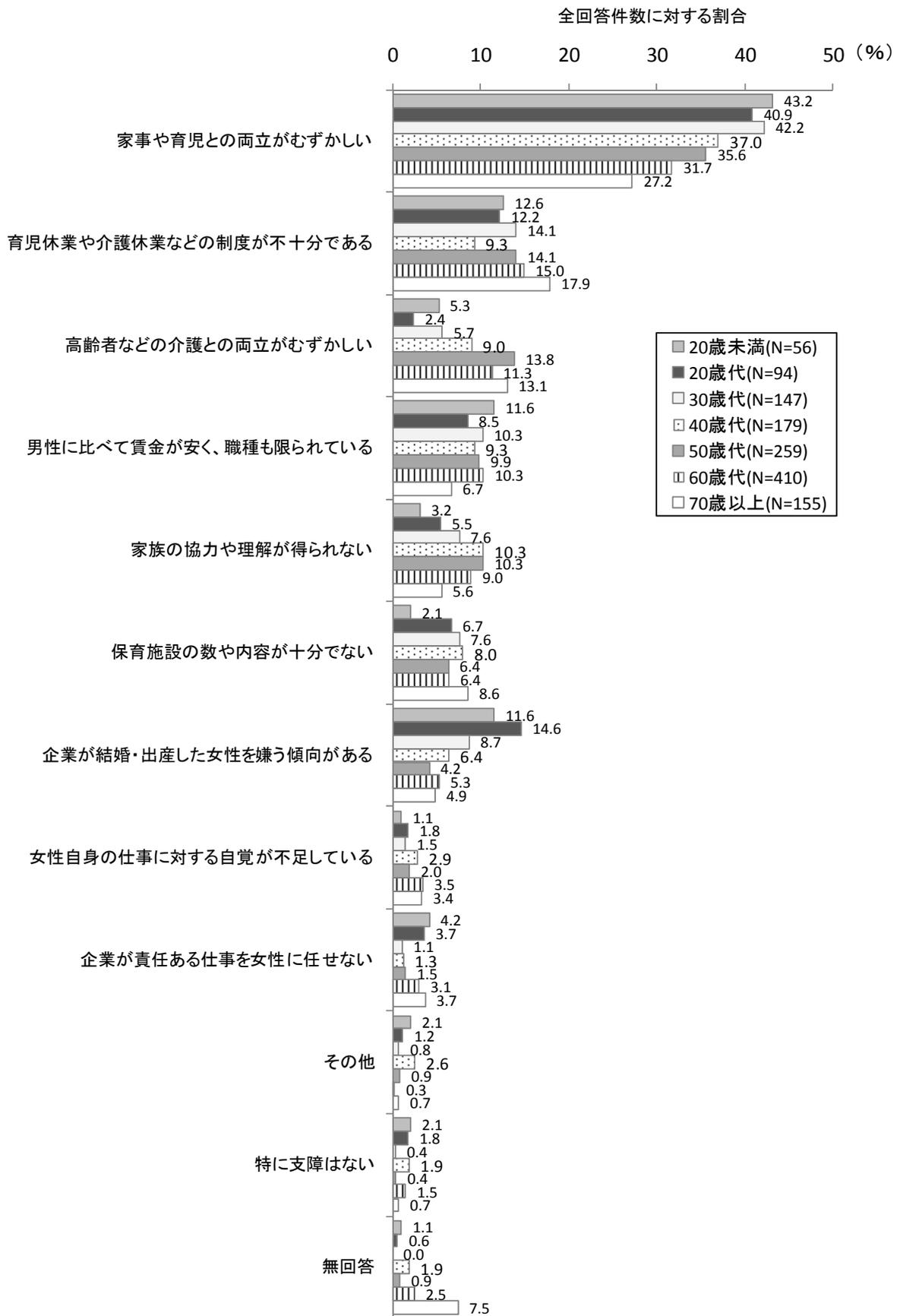
H27調査、H22調査、H17調査の比較



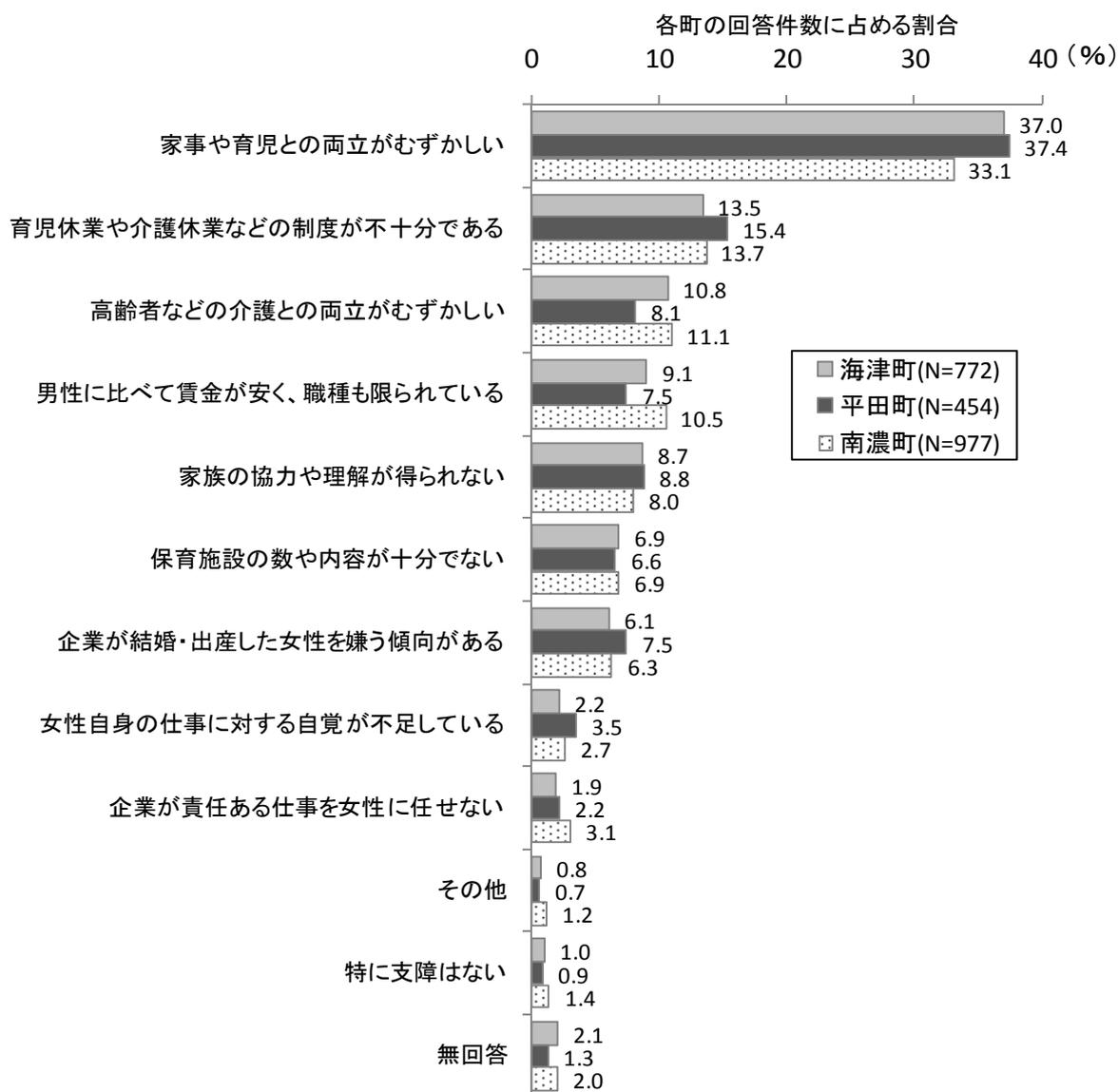
女性が仕事をもち続けていくうえで支障があると思われること(性別)



女性が仕事をもち続けていくうえで支障があると思われること(年代別)

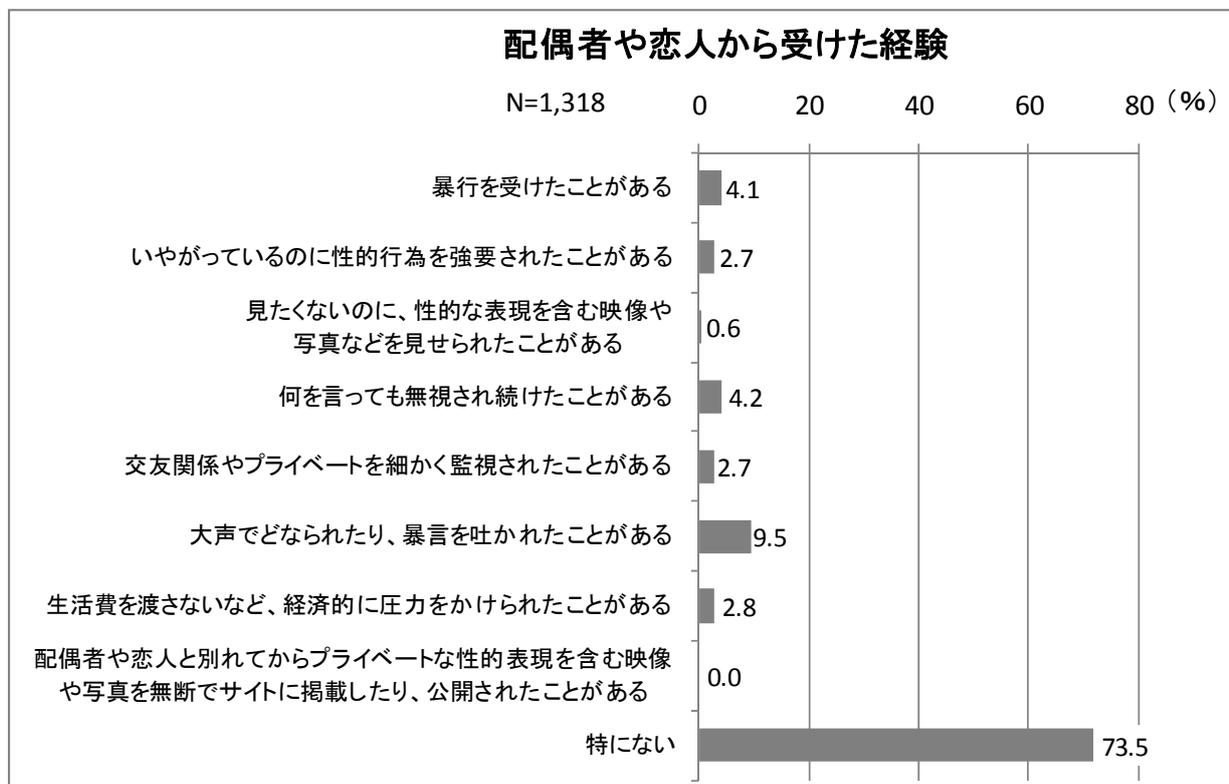


女性が仕事をもち続けていくうえで支障があると思われること(町別)

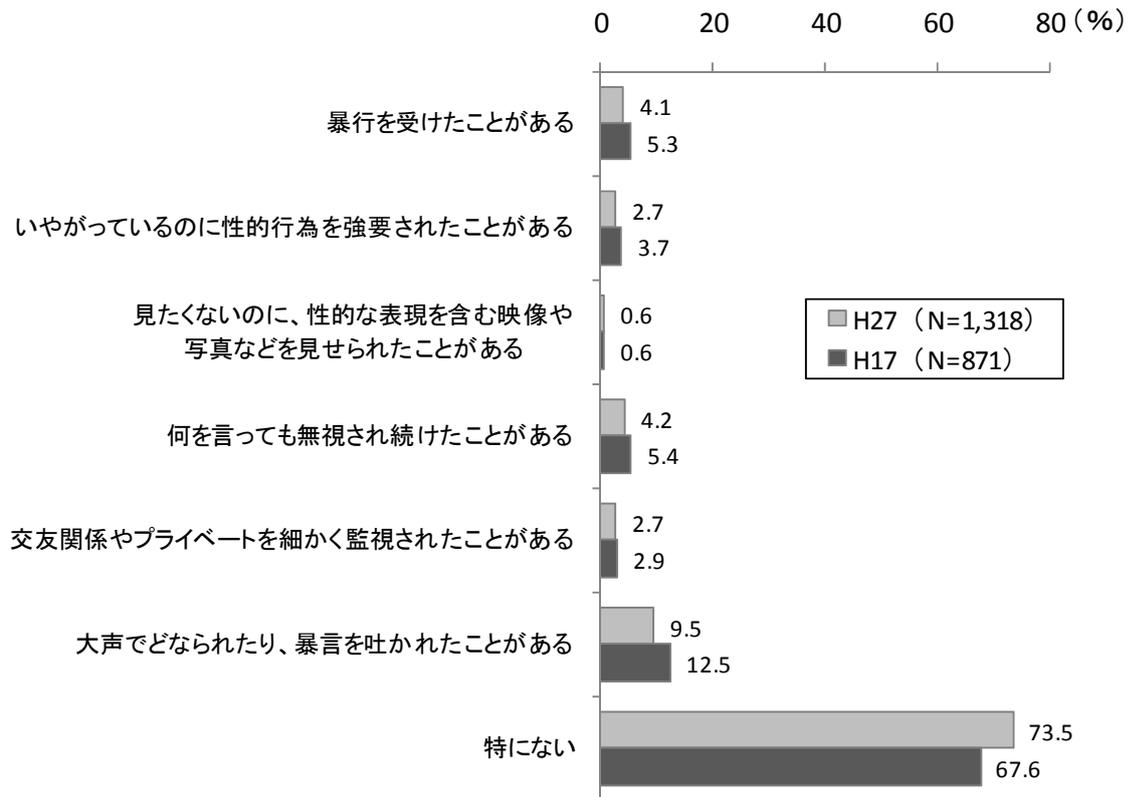


問34 これまでに配偶者や恋人から、次のようなことをされた経験がありますか。(複数回答)

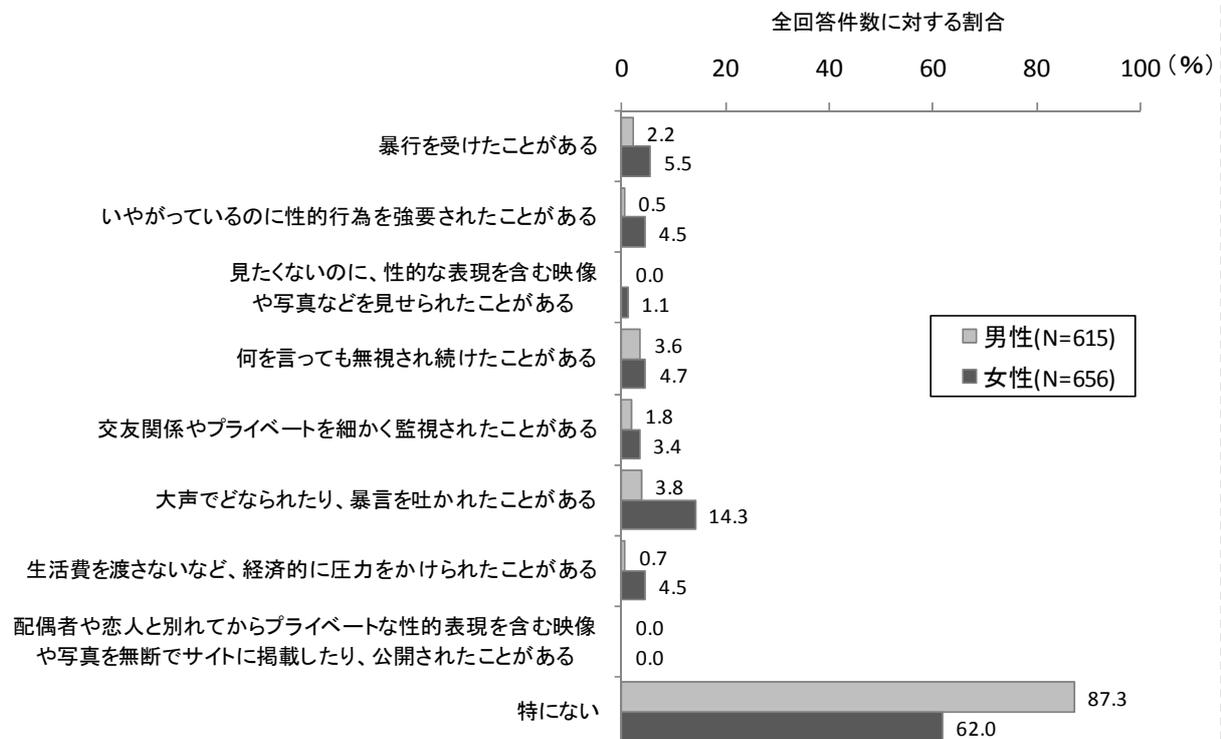
- 「特になし」と回答した人の割合が73.5%で最も多く、次いで多かったものは、「大声でどなられたり、暴言を吐かれたことがある」の9.5%となった。
- H17の調査と比較すると、「特になし」が5.9ポイント上昇し、それ以外の項目が全て減少していることから、全体的に被害者は減少していることが分かる。
- 性別で比較すると、「特になし」以外の全ての項目で、男性よりも女性の被害が多い。最も多かったものは、「大声でどなられたり、暴言を吐かれたことがある」と回答した人の割合で、14.3%となっている。
- 年代別で比較すると、全ての年代において「大声でどなられたり、暴言を吐かれたことがある」と回答した人の割合が高くなっており、中でも全ての項目で、平均して30歳代と50歳代で「ある」と回答した人の割合が多くなっている。
- 近年、SNSの普及で問題化されている「リベンジポルノ」については、回答の割合は0%となっていることから、被害者はいないことが分かる。



H27調査とH17調査の比較



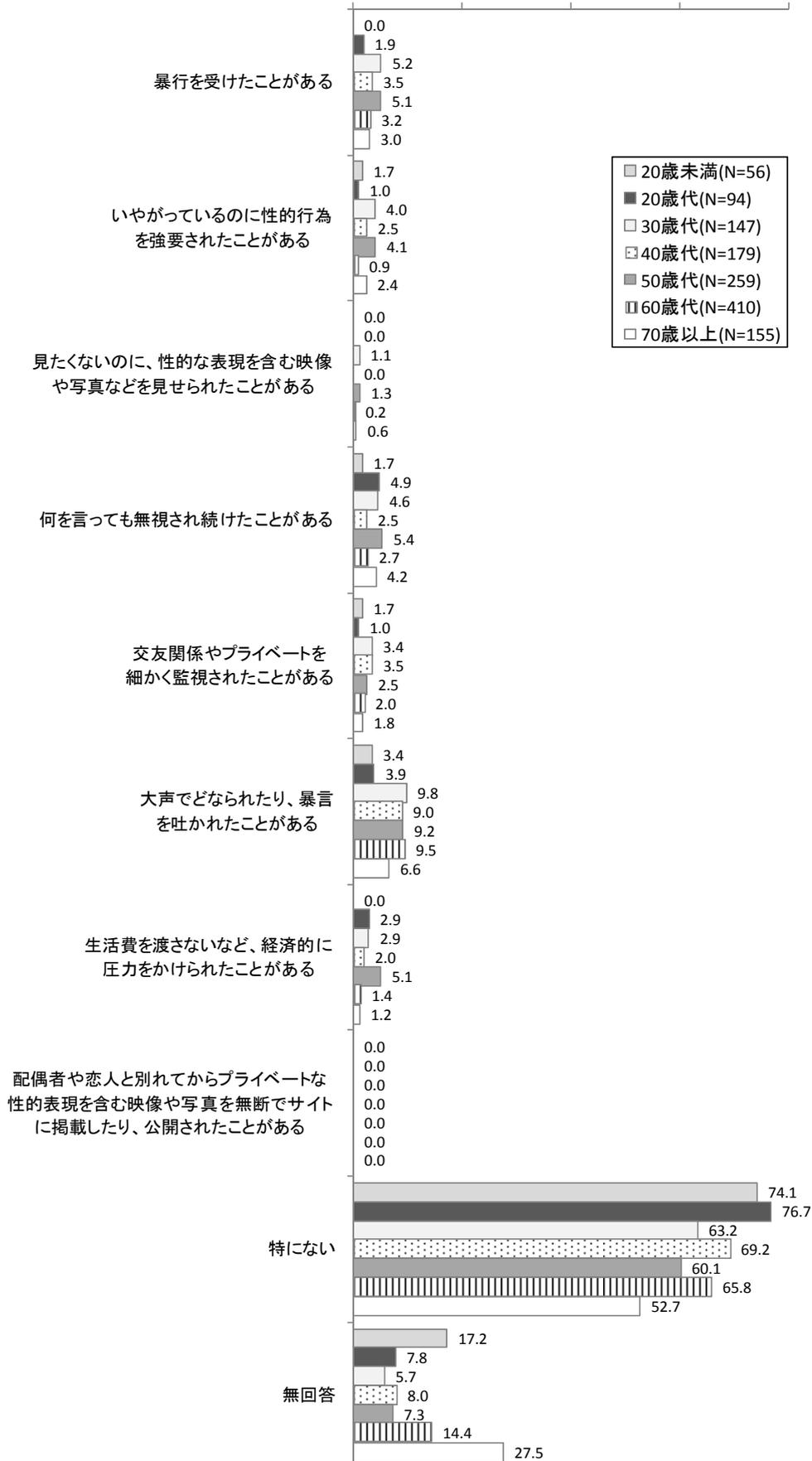
配偶者や恋人から受けた経験(性別)



配偶者や恋人から受けた経験(年代別)

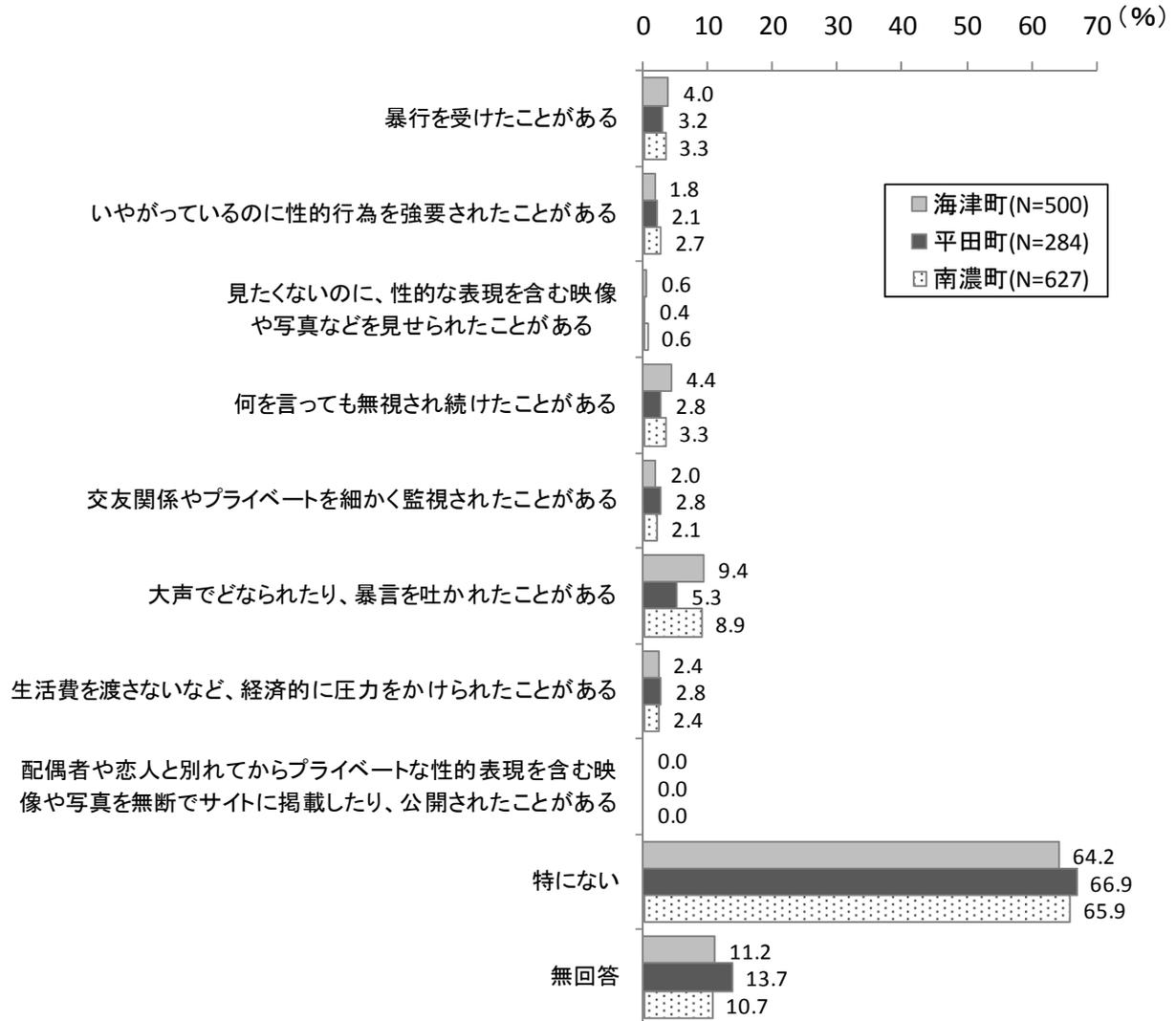
全回答件数に対する割合

0 20 40 60 80 (%)



配偶者や恋人から受けた経験(町別)

全回答件数に占める割合



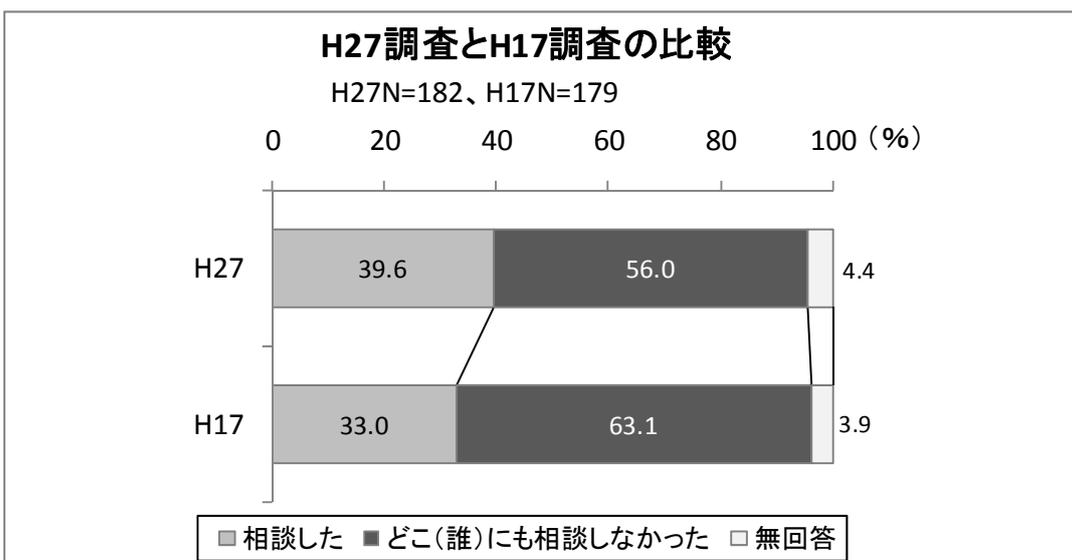
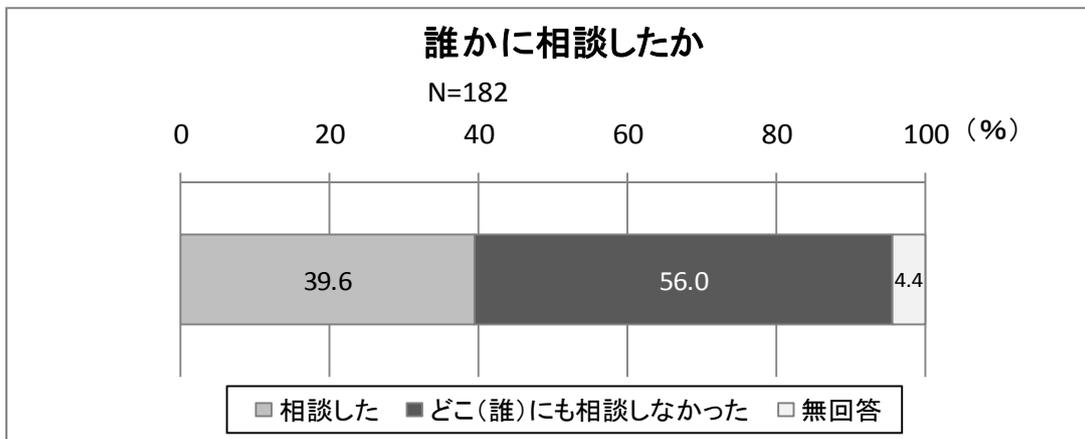
問34-1 問34で「1」～「8」のいずれかに○印をつけられた方にお聞きます。配偶者や恋人からの行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

○誰かに「相談した」と回答した人の割合は39.6%で、「相談しなかった」と回答した人の割合は56%となっており、半数以上が相談しなかったことが分かる。

○H17の調査と比較すると、「相談した」と回答した人の割合が6.6ポイント上昇している。

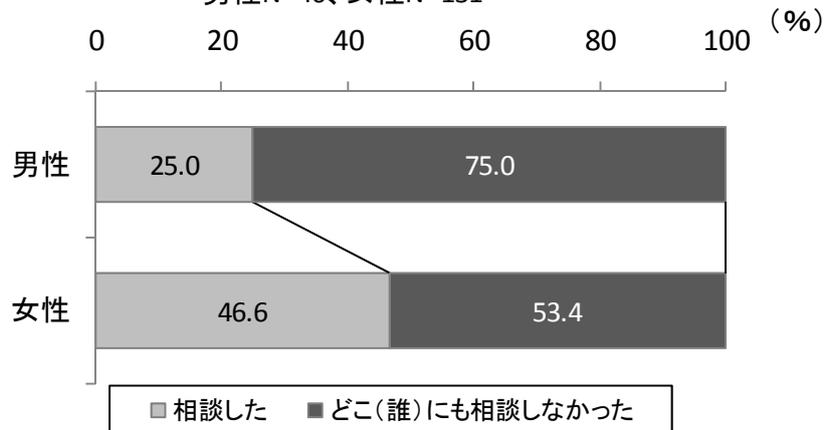
○性別で比較すると、「女性」の方が「男性」より相談した人の割合が多く、女性は男性の約2倍の人が誰かに相談していた。一方で、男性は「相談していない」と回答した人の割合が75%となっており、半数以上の人が誰にも相談していない。

○年代別で比較すると、若干変動があるものの、若い世代～子育て世代において相談した人の割合が高い。これは、学校や保育園、幼稚園等で同級生やママ友達などの交流する場があるということや、直接相談窓口足を運んだり、電話での対応窓口だけでなくメールやWeb掲示板などインターネットを利用した窓口も多く設置されていることから、インターネット等を多く利用する世代で高くなっていることも考えられる。



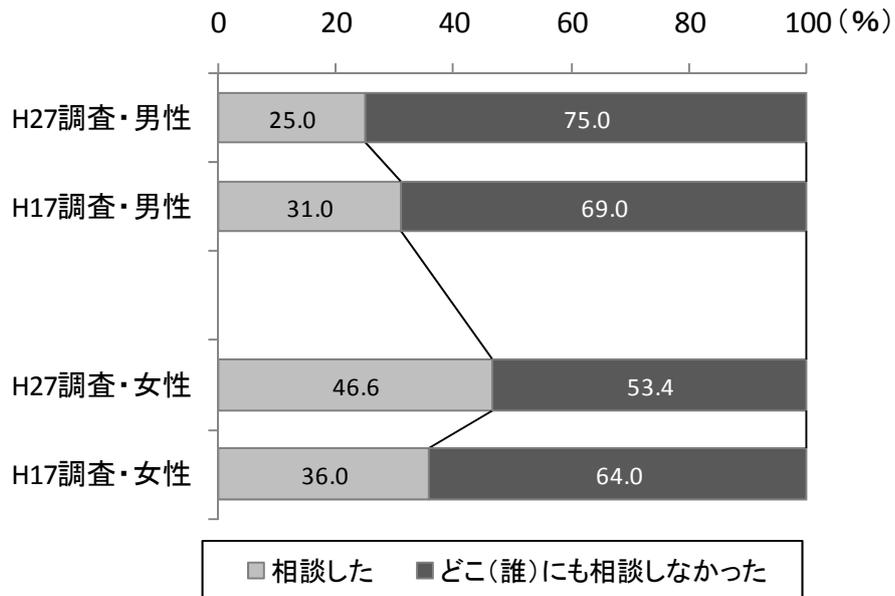
誰かに相談したか(性別)

男性N=40、女性N=131



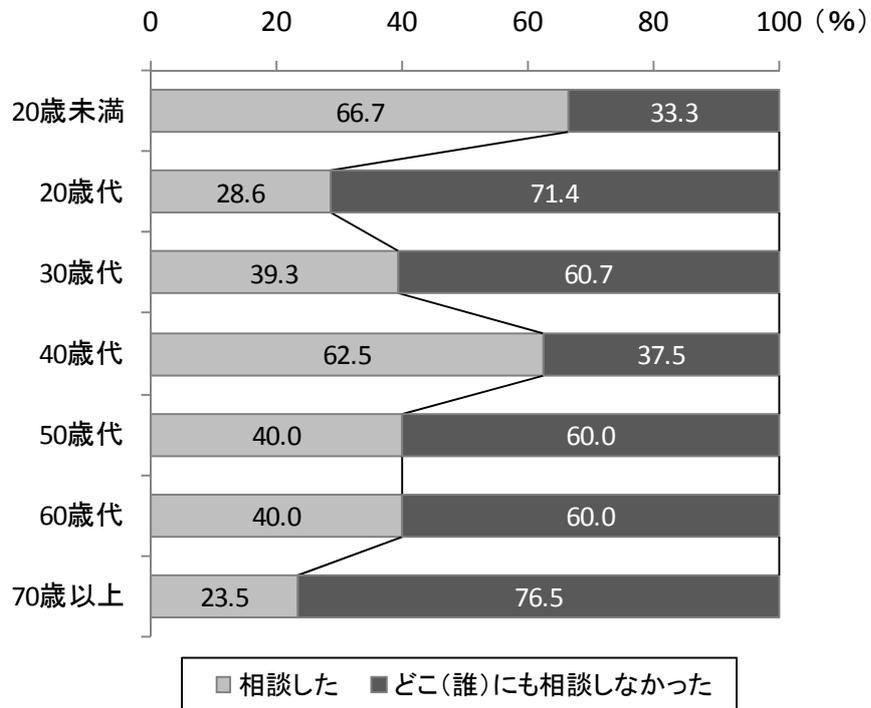
H27調査とH17調査の比較(性別)

H27男性N=40、H17男性N=45、H27女性N=131、H17女性N=132



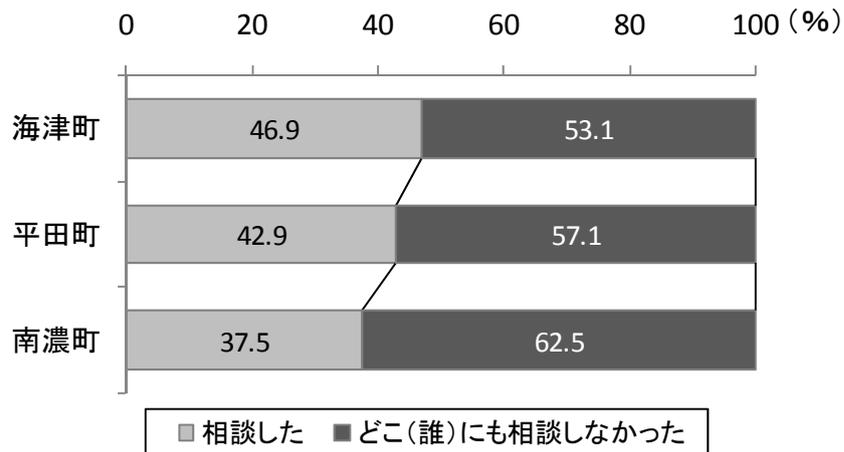
誰かに相談したか(年代別)

20歳未満N=3、20歳代N=7、30歳代N=28、40歳代N=24、
50歳代N=45、60歳代N=50、70歳以上N=17



誰かに相談したか(町別)

海津町N=64、平田町N=28、南濃町N=72



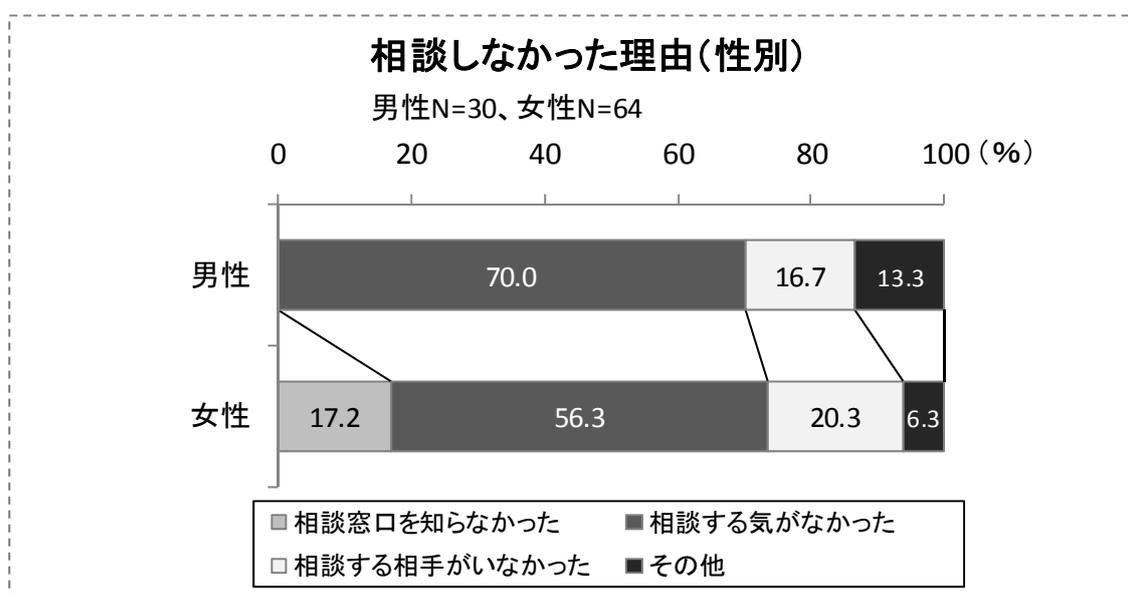
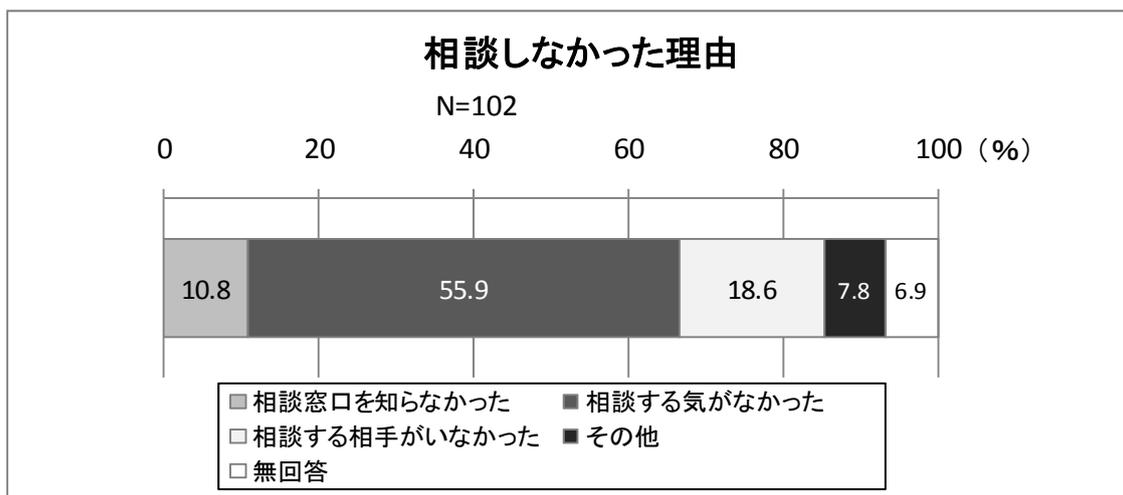
問34-2 前問で「相談しなかった」方にお聞きします。配偶者や恋人からの行為について、どこ(誰)にも相談しなかった理由は何ですか。

○相談しなかった理由は、「相談する気がなかった」が55.9%で最も多く、次いで「相談する相手がいなかった」が18.6%となっている。

○性別で比較すると、男性は「相談する気がなかった」が70%を占めており、自分の意思で相談しなかった人が女性よりも多いことが分かる。一方で、女性は「相談する気がなかった」が56.3%、次いで「相談する相手がいなかった」が20.3%となっている。

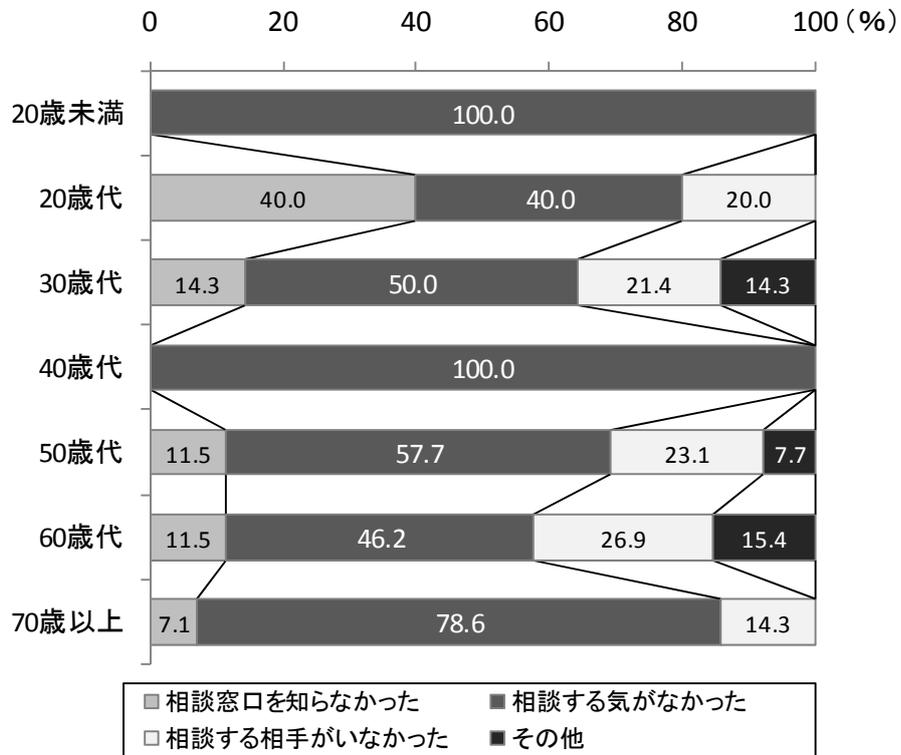
また、「相談窓口を知らなかった」と回答した男性が0%なのに対し、女性は17.2%が知らなかったと回答している。

○年代別に比較すると、全ての年代に共通して「相談する気がなかった」と回答した人の割合が最も多い。また、「相談窓口を知らなかった」と「相談する相手がいなかった」を合算すると、20歳代で60%、60歳代で38.4%となっている。30歳代や50歳代でも、40%近い人が「相談する相手がいなかった」あるいは「相談する窓口を知らなかった」ことで、相談したいという気持ちがあっても、悩みを打ち明けることができなかったことが分かる。



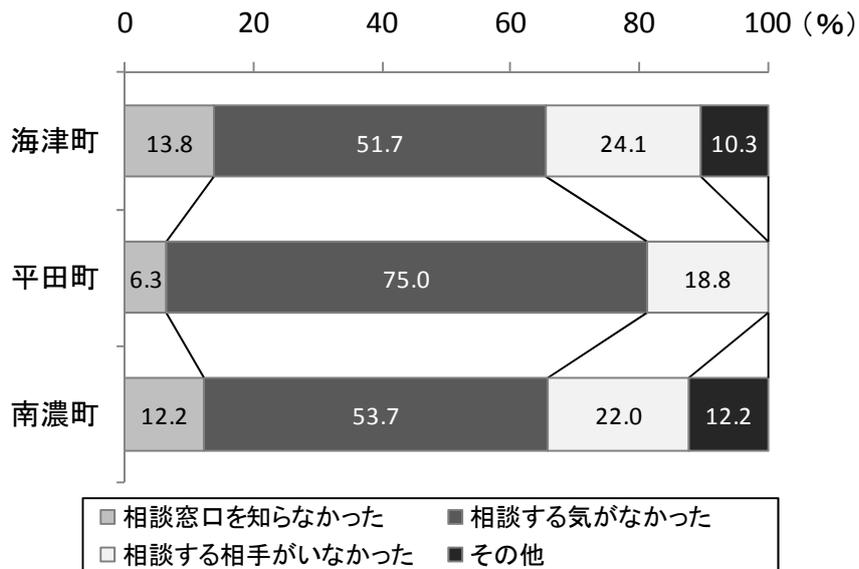
相談しなかった理由(年代別)

20歳未満N=1、20歳代N=5、30歳代N=14、40歳代N=9、
50歳代N=26、60歳代N=26、70歳以上N=14



相談しなかった理由(町別)

海津町N=29、平田町N=16、南濃町N=41



3) 自由回答

海津市の男女共同参画に関して、ご意見などがございましたらご自由にお書きください。

男女共同参画に関する自由意見は計 74 件寄せられた。同じアンケートで行ったまちづくりに関する自由回答の場合 (421 件) より少ないが、これは「男女共同参画」というテーマ自体が意見として書きにくいものであったためと考えられる。

下の総括表を見ると、「男女平等や男女共同参画への期待、要望 (16)」が多い一方で、「男女の違いを理解することの重要性など (9)」や「男女平等や男女共同参画への疑問など (7)」、「よく分からない (6)」のように、画一的な男女平等や男女共同参画に対して違和感を覚えていると考えられる回答も多かった。

また、「仕事と子育ての両立、ワークライフバランス (8)」のほか、具体的な提案「女性の参画に関する提案 (5)」や「男性の家事や育児への参画に関する提案 (4)」もあり、選択肢方式の設問 (問 26 ~ 問 34) の集計結果とも関連している。

全体的に自由回答は、選択肢方式での設問結果を補完するような側面 (設問自体への問いかけや率直な印象など) がよく出ていると考えられる。

自由意見の主な内容と件数

| 分類項目 | 主な意見 | 件数 |
|-----------------------|----------------------------|----|
| ■女性の参画に関する提案 | ・女性の参画率の向上 | 5 |
| | ・女性が活動できる場づくり | |
| ■男性の家事や育児への参画に関する提案 | ・男性の家事参加、育メンの普及 | 4 |
| ■男女平等や男女共同参画への期待、要望 | ・男女平等、男女共同参画の推進 | 16 |
| ■男女平等や男女共同参画への疑問など | ・考え方を改めることが大切 | 7 |
| | ・男女平等や男女共同参画は理想に過ぎない | |
| ■男女の違いを理解することの重要性など | ・男女の違い、役割の違いをきちんと認識することが重要 | 9 |
| ■仕事と子育ての両立、ワークライフバランス | ・仕事と子育てを両立するには内外の理解と支援が必要 | 8 |
| ■子育てについて | | 2 |
| ■セクハラ、パワハラ、悩み相談など | ・相談窓口が欲しい | 4 |
| ■男女平等や男女共同参画に関する教育、啓発 | ・パワハラやセクハラ等に関する教育が重要 | 5 |
| ■よく分からない | ・男女共同参画の内容がよく分からない | 6 |
| ■その他の意見 | | 8 |
| | 合計 | 74 |

以下は意見の内容に応じてまとめたものである。

| 男女共同参画に関する意見（カテゴリー別） |
|---|
| ■女性の参画に関する提案 |
| 女性の会議等への参画（参加）率で例えば30%以上と言う目標がありますが、もうその見方は一定の役目が終わったので、次に男性割合に目をむけ、「男性の参画（参加）率を70%以下とする」等に移行してはどうか？ そして一定期間（3年程）後に同数に持って行く等、参画数（率）にこだわる間は、会の本質を見失う気がする。私よりも若い世代（40歳以下）には男女比へのこだわりが薄いように感じられる。今後は自然と能力も踏まえ女性は進出してくる。選出（女性を）する側において普段より教育（業務の責任感、計画立案等）することが大切と思います。 |
| 市役所職員の女性管理職の登用を推進する。 |
| 女性議員が（旧南濃町）から2名で、議員数にも女性議員数を増員させるなど、共同参画の意に則しては？ |
| 海津市は総じて昔ながらの昔の考え方の人が多いから、なかなか共同参画は進まないと思う。もし共同参画に理解があるのなら村祭り、町内祭りに女性が参加しても良いが、ほとんど見かけない。こちらあたりから共同参画の突破口とするべきだと思います。政治とか街づくりとかむづかしいことでなく、町内の祭りに女性を参画してもらったらどうか？ 海津市が全国の市町村に先がけて全部落で実施したらどうか。 |
| 地域社会にもっと女性が活動できる場づくりが必要だと思います。 |
| ■男性の家事や育児への参画に関する提案 |
| 単身世帯・共働き世帯・高齢者世帯が増加している。スムーズに家庭生活を送るには、男性の家事参加が不可欠である。学んだり、話し合ったりする機会をもうけたらよいのではないか。 |
| 男性向け料理教室、子育て教室などの機会を作り、未来のイクメンを育てていてもらいたいです。（奥さんが風邪で寝こんでいても、旦那さんは家事をやってくれないという話も聞いたことがあるので）。「問34」の人は市外の人でしたが、「女の人も仕事してほしいけど家に帰ってきたら、夕飯が毎日ちゃんと用意していないと嫌だな」とか言っていたので、フルタイムで働き、家事育児もしっかりこなす女性がどれだけ大変か、その苦勞が分かってもらえるような人をもっと増やしていくべきです。 |
| 育メンの指導 |
| 女性が社会参画するには、男性が本当に「自立」していないと難しいのでは？ 家族のこと、自分のこと何一つこなせない男性が家の中には女性は外へ出て行くことができません。 |
| ■男女平等や男女共同参画への期待、要望 |
| 男女平等さらなる充実 |
| 男女共同参画に賛成です。男女は平等であるべきだと思います。 |
| 男尊女卑の無い社会づくり |
| 女性が働くこと。男性が家事をすることへの理解があれば、すべて解決すると思う。特に老人・男性上司の理解が必要！！上記の理解を導くのは・・・ということですが、まだまだ時間がかかるかな。だって心の問題だから。職場の環境・地域の行政の整備等がある。海津市は子育て、特に女性が働きやすい所だという町づくりするのもいいかも？ |
| 海津市は、学童保育や病児保育も充実しているので、とても助かりました。（ただ、時間に難ありですが・・・）高齢化で介護が必要になってくる人もどんどん増えていくと思います。女性だけでなく男性も、性別にかかわらず、子育てや介護地域活動の参加等がしやすくなるとよいと思います。 |
| すばらしい取り組みだと思います、まだまだ男尊女卑は風潮が残されているようですが、男女の性差はあれど一人の人間としてともに補ないあい支えあえるような社会になるよう、私たち大人が手本となり、子どもたちにいい影響をあたえられるようにと気づかされました。 |
| 個々の考えやおもいを吸い上げ、海津市民協同、共同参画での街ができるのですね。ありがとうございます。 |
| 最近の若い夫婦は協力的でとても子供とっていいと思います。私達の時代とはちがってとてもうらやまし |

| 男女共同参画に関する意見（カテゴリー別） |
|---|
| <p>と思います。</p> |
| <p>海津市は男性女性とも仕事に就いておられる方が多いと思いますが、市内での仕事は限られると思います。若く優秀な人材が地元に残ってもらえるよう、働ける場を増やしてほしいと思います。</p> |
| <p>昨今、職場などでは、女性の活躍が期待されています。男も女も関係なく様々なことは適材適所で、その時と場合に応じて対応すべきであると考えます。</p> |
| <p>男女共同参画はそうあるべきだが一部にむづかしい点もあると思います。昔を生きてきた人間はどうしても古風というか封建的に事を持っていってしまうので、環境とか時代も関係あると思います。安部首相もこのことを掲げてますし、徐々にその輪が広まってほしいと思います。それにしてもこのアンケート調査は深いものがあると思いますが、少し戸惑いながらお答えしました。</p> |
| <p>男女共同参画と言っても、なかなか急にえられるものではないでしょうか？！年代別によっても、むずかしいと思う。理想と現実という点で、古い体質かもしれないが、それを脱皮しないと男女共同参画がみえてこない。若い世代の方に期待しています。</p> |
| <p>大切な事業であるので、しっかり取り組んでほしい。</p> |
| <p>制度があるので海津市も取り組むという考え方ではなく、海津市としてどのように男女共同参画を進めていくのか、基本的な考えや方向を明確にし、市民にも公表し進めていただきたい（決まってから公表するのではなく、決める前に市民に公表してほしい）。</p> |
| <p>市の職員の中の女性、はつらつと元気に、また若い男性の方もがんばってみえると思います。年配の男性はどうでしょうか。</p> |
| <p>男女それぞれの良い点は大切にした上での共同参画を考えることが大切だと思います。</p> |
| <p>■男女平等や男女共同参画への疑問など</p> |
| <p>男女共同参画というタイトルにおどらされて無理に男女の人数合わせをしたり、適所でない所に配置したりしないよう気をつけることが大切かと思えます。考え方を改める活動が一番大切かと思えます。</p> |
| <p>男女共同参画は理想であって、現実にはむりがあるのではないのでしょうか。</p> |
| <p>男女平等は絶対に無理。でも、もっと女の人が働きやすい仕事環境をつくるべき。</p> |
| <p>平等じゃなくてもいいんじゃないの？男は男、女は女。公務員的な考え方やめませんか？</p> |
| <p>無理に男女平等すべきでない、悪い例が安倍内閣。女性というだけで大臣にしてつまづいている。男女関係なく、実力ある人を用的べき。もし女性に実力があれば、上役全員女性でかまわない。その代わり、男性の方が実力があれば、全員男性を上役にしてほしい。実力を評価して、その評価基準に男とか女とか含めないのが男女平等だと考える。</p> |
| <p>男性・女性という区別で考えるよりも、人として適材適所で役割を分担した方が良いと思う。（仕事でも家事でも）このようなアンケート自体が男女の差別を容認しているのではないか。何を意図しているか、皆目見当がつかない。（ナンセンス）男性・女性で物事や役割を区別している間は差別はなくなると思う。</p> |
| <p>難しいことはわかりませんが、小さい子供を預けても働かなければならない時代で、若い方も大変だと思います。私（66才）の頃は、当り前のように親と同居そして、家でやれる内職、少々女が弱い立場のように見えてましたが、あまり失敗せず良い子育てができたので、今はとても幸福です。今は親と一緒に住む人など居なくて、会社なども女が強い・・・家でも御主人を立てて居る人が本当に少ない、これが男女同権のなれの果てかと思えます。男の収入が多くなって、女の力も充分認め、離婚などが少なくならなければ、本当の男女共同参画にはならない！一つの家庭も世の中の道理も元は一緒です。</p> |
| <p>■男女の違いを理解することの重要性など</p> |
| <p>私は古いかもしれませんが、男女は平等であるべきだとは一部分では思わない。昔のように「男は外！女は内！」でもかまわないと思う。男としての女としての「特性」があるのだからそれを活かせばいいと思う。仕事をしている女の人が子育てや家事を手抜きとは思わないけれど、やっぱり時間的には無理だと思う。時</p> |

| 男女共同参画に関する意見（カテゴリー別） |
|---|
| 間に追われて心に余裕がないと思うし。最近の子供達の荒れ具合を見ても（ＴＶなどで見る）やはり愛情不足かなと思う。 |
| 男も女も人として考えれば同じ立場です。でも、神が与えた役割は少しちがう。その異なった役割を理解して補ない一つのものとなれば全てとなるように神は作られた。男と女は形こそ多少（いえ全く異なるところもあるが）異なるが５０％：５０％で両方揃うと、１００％となるのでは・・・そう考えると同じ立場同等です。 |
| 男女共同は良いが、父は父、母は母の心の極と行動がほしいですね。あまり色々と共同が行き過ぎると、子供環境（心）の変化が？ |
| 男女平等とはメリットとデメリットがあるので、何でも平等が正しいとは思わない。男性・女性それぞれの特性に応じた環境づくりにしていくべき。女性の方が高所得であれば、男性が育児を担うという手もある。 |
| 男性には男性の良い所や向いた職業があり、女性にも同じことが言えるし、無理なこともあると思います。その人に合った場でその人の良さが発揮できる社会であれば、それが平等であり、参画しているのではないかと思います。市は参画できていると思います。 |
| 男性の自由、権利、責務。女性の自由、権利、責務がどこかが違う気がします。家庭の仕事は、とても大変なことで、外に出て働くこと以上にたくさんこなすことがあります。古い考え方で、規格外な意見ですが、男性女性の「平等」の意味が、皆さんと私では違うので、アンケートの主旨もよく理解できないし、このアンケートをしたからどうなるの？と考えながら記入しました。市の係の方には、大変御苦労さまです。 |
| 母親、父親が同時に働いていて子供が熱を出していた時、どちらも社員の場合まずは母親が休みをとると思います。母親の手当はとても気持ちのいいものです。父親が休みをとればまわりは母親がなんでもみないの？となるでしょう。正直それがふつうだと思いますし、大半がそんな考えだと思います。だから母親がパート、アルバイトにならざるをえない。何十年前よりはだいぶ変わってきていると思いますが、男女平等ではないですね。男女共同ですね。腕力はちがうので平等とはいきませんが、会社が地域が社会が家族が男性に何を求めるのか、女性に何を求めるのか、それを明確にするのがとても大事だと思います。この意見が何かに役に立ちますように。 |
| 社会進出した女性たちをサポートしていただくのは良いと思うが、いわゆる旧来からの価値観を肯定的に捉えている女性もいると思うので、画一的な行政にならないよう配慮いただきたい。 |
| 海津市に住んでいて男・女で不便を感じることはあまりないです。ただ、なんでも平等、平等ということよりも、やっぱり向き不向き、得意分野で差はあると思うので、性別の件だけではなく、個人の能力をいろんな場面で差別なく評価してもらえる場が増えるとうれしいです。男女共同参画という字づらだけで、だから男性も女性も平等になんでもやらなくちゃ・・・と思われてしまいそうな勘違いが広がってしまうとかえってプレッシャーで生活しにくくなってしまいうように感じます。子供の個性を伸ばすような感じの市民がそれぞれの良い所を発揮できる場をたくさん作っていただきたいです。 |
| ■仕事と子育ての両立、ワークライフバランス |
| 子育て支援を充実して、出産後早くに女性が働けるよう、企業に対しても指導お願いの形で、市からも言ってほしい。労働時間、産休など。 |
| 女性が働き続けるには、一緒に働く人や企業、周囲、夫の理解や協力、制度の充実が無いと、働き続けることは大変です。 |
| 子育て中は、学校行事や子供の急な病気などで、仕事をしていると休まなければいけない状況がどうしても出てくる。ましてや子どもが増えるほどその回数は増えるので、休まなければいけない日が増えてしまうため、仕事をしたいと思ってもなかなか見つからない。できるだけ近くで仕事を探したいと思っても、海津市内には大企業もなく、働く場が少ないのが現状です。そうすると、どうしても子供のことは女性が面倒を見ることが多く、女性が働くのが難しくなります。できるだけ企業を多く誘致して、働く場所や条件を考えて欲しいと思います。 |

| 男女共同参画に関する意見（カテゴリー別） |
|---|
| 基本的に、子供が大きくなるまで女性は家庭で子供の心を育てるのが良いと思いますが、生活の苦しい家庭もあり、働かざるえない一家もあるが、社会は女性向きではないので、海津市が農産物の販売や育成など短時間でも収入を得られる職場を作れたら良いと思う。もう一つ言えば、本当に働く必要があるのか考える必要もあると思う。育児で悩む人や、家庭の大切さを学ぶ機会があると、心が育てられて何のために結婚したのかが分かるような気がする。 |
| 比較優位の考え方で、男性は仕事を頑張り、女性は、家庭を守る。逆でもいいんですが、お互いに支えあい、社会も家庭もうまくまわれば、皆、幸福度があがると思います。女性が仕事も家庭も頑張るなんてしんどすぎます。 |
| 自分が現在ひとり親なので、女性も働きやすい環境だといいと思います。 |
| 男性が育児休暇を取りやすいように配慮すること。（職場で） |
| 市役所の男性職員が育児休業を取られていることがうらやましい。サラリーマン・自営業ではありえないことですね。 |
| ■子育てについて |
| 子育てについてになります。学校や、幼、保育園に対して、なんでもかんでも統一、一緒にさせようとするのはやめていただきたい。まとめれば、行政的には都合がよろしいのかもしれませんが、その地域地域に合った教育、子育てがあるはず。人数が少ないから一緒にするという安易な考えは地域の特性も生かして行くことはできないし、統一することによって結局は中心部ばかりに人も建物も集められ、市の端に行けば行くほど、交通も、市のサービスも不便極まりないです。男女共同も素晴らしいと思いますが、市のどこに住んでいても同じサービス、同じ安心感が得られるようにしていただきたい。オンデマンドバスも利用しにくい。それだったらスクールバスを充実させた方がよい。絶対。 |
| 男女も大切ですが、育児に関してはおじいちゃん、おばあちゃん世代と、若い夫婦世代の常識が違っている場合があります。『昔はこうだったが現代ではこうだ』などのおじいちゃんおばあちゃん向けの教室などがあるといいですね。孫のことなので喜んで行くのではないのでしょうか。母親には母親向けの母親教室がありますよね。そんな感じの『おじいちゃんおばあちゃん教室』とかいいのではないですか。 |
| ■セクハラ、パワハラ、悩み相談など |
| トクメイで話せる窓口があったらいいと思う。フリーダイヤルとか・・・。 |
| 60才以上でのエロジジイサン男性が多いので対策して下さいな。 |
| 性別を問う必要があれば、仕方がないが、LGBTに対する配慮はあまり感じられない。 |
| とても男性側の圧力をいろいろな場面で見ます。女性がみじめなことがあると思います。あと10年～20年くらいすれば少し変化しますか。願います。 |
| ■男女平等や男女共同参画に関する教育、啓発 |
| まだまだ啓発していく必要があるのでは・・・。 |
| パワハラ、セクハラ、教育が大事です。今の世の中本当にむずかしいことばかりです。ちょっとしたことが大きくなります。女性にも責任ある立場についてもらって、色々やれば見えてくるのではないのでしょうか。 |
| 中学生の時に『将来』について深く考える時間をもっととった方が良いと思います。その上で大まかな人生設計を作ること、子どもの頃から目的を持ち生活できますし、女性の進出も増えるのではないのでしょうか？ |
| 海津市の男女共同参画推進条例について知りませんでした。勉強したいと思います。 |
| 表面上は男女平等となっているが、実質的には男女平等ではない部分も多々あります。男女共同参画という言葉自体知りませんが、このような法、条例等の周知にも力を入れてほしいと思います。 |

男女共同参画に関する意見（カテゴリー別）

■よく分からない

「男女共同参画」という言葉自体の、はっきりとした内容（意味、意図）がわからないので理解できず、コメントのしようが無いというのが本音である。男女共同参画社会の内容PR等を積極的にしないと、まずは理解が得られず、理解が得られなければ「事は進まない」と思います。私事で恐縮ですが、家内など「男女共同参画社会」って、それなんのこと？と答える始末で、近所の奥様方にも雑談の中でそれとなく聞いてみましたところ、5人中5人が家内と同じ答えでした。

いくら男性がもっと家庭に入って活動して欲しいと思っても、その人の考え方で参画する必要があってもやってくれない人は多くいると思います。考え方をかえるにはどうすればいいの？ このプランが5年かかってどうかわるのか、何が目的か今一つ不明です。

海津市が男女共同参画について、何をしようとしているのかが分からないので、特に意見はありません。

男女共同参画の法律ができる前に身近に問題点があった訳でもないから、よくわからない。

男女平等についての質問の設問が意味不明、あてはまらない項目ばかり。何を判断で優遇と判断するのですか？ どちらも優遇されていると思えないことが多々ある（平等とは何ですか？）。優遇されていないと感じていないのに、マルを付けなければいけない設問に疑問を感じました。

内容がむつかしすぎて分かりづらい。

■その他の意見

マタハラや結婚後に寿退社を迫るような企業は名指しでインターネットに公開してしまえばよい。家庭内の意識は各個人の意志もあり、行政が言いすぎるのもどうかと思う。

私は幸せに生活しているからかもしれませんが、男性とか女性とかでなく、会社（仕事）とか家庭でなく、何事も何人も「できる人ができることをできるだけ行う」このコンセプトで、一日一日が前向きに生活できれば楽に楽しく生きれるのではと、常に心掛けています。相手に求めるのではなく、主人にこれをしてほしいでなく、助けてもらっていると思えばいいのではないのでしょうか。男女共同参画と片意地を張らず、地域・家庭生活することが最善と思います。

人間として生きがいを見つける仕事があればどんな苦勞でもたえることができるので、男の仕事、女の仕事と決めつけない社会環境を作っていきたいと思います。

男性と同じく子供を産まず仕事に従事するなら給与面等は平等にすべきだが、実際にはそのようなことはできない。ならば問題は男性一人で家庭を支える能力を持たせることが解決の道と考える。基本的には金銭の問題をどうにかするしかない。そのためには景気をよくして、もっと給与面に関しての不安を解消しなければならぬが、それも容易ではない。

若者は男女が不平等とは思っていないと思われる。

特になし。もしも書くことがあるのなら、この質問をする前に男女共同参画についてまとめてからアンケートをとるべきだと思います。

山の南濃、水の海津、商業の平田、融合は難しい。と同時に、まだ男女の区別化が強い海津市には協同できることは難しい。特性を活かすことが大事ではないかと思います。諸々の行事に市の職員の顔がないのはなぜでしょう。まずはここから始めなくては・・・。男女共同参画。

少しでも海津市がよりよくなることを期待しています。



海津市市民意識調査分析結果報告書

平成 28 年 2 月

海津市市民環境部市民活動推進課

〒503-0695 海津市海津町高須 515 番地

TEL : 0584-53-1111 (代表)

<http://www.city.kaizu.lg.jp/>